

2018年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて

ボランティアセンター長 岡本 哲和

関西大学ボランティアセンターは、2019年に開設14年目を迎えます。

大学内では、ボランティア活動が座学では得られない心の成長を促す活動であるとの理解とその必要性についての認識が広がってきています。これも多くの関係者の皆様のご支援のたまものです。ここに厚くお礼申し上げます。

ボランティア活動に参加する学生の動機は、ボランティア活動を通じて社会に貢献したい、ボランティア活動を通じて人とのつながりを得たい、ボランティア活動を通じて知見を広めたい、など様々です。これまで、当センターでは1人でも多くの関大生がボランティア活動に魅力を感じ、最初の一步を踏み出せるように、いろいろな取り組みを行ってきました。その結果、ボランティア活動参加者は毎年2千名近くへと増加し（当センター主催プログラムのみ）、それがさらなる学生による自主的なボランティア活動へと発展する呼び水にもなっています。

当センターの活動の一例として、学生スタッフが企画・運営したボランティア体験ツアーがあります。そのテーマは、環境保全に関するもの、地域貢献に関するもの、子どもに関するもの、清掃活動に関するもの、防災に関するものなど、きわめて多彩です。学生自らによって学生目線に基づいて社会や学生の関心を理解した上で考え出された企画は、ボランティア活動に対し多くの学生が持っていた先入観をよい意味で変えて、「自分ももっと活動に参加したい、ボランティアの精神を大学内にもっと普及させたい」と感じさせる内容となっています。

関西大学は2016年に創立130周年を迎えました。そして来たるべく150周年を見据え、長期ビジョン「Kandai Vision 150」が策定されました。その中で、ボランティアセンターは新たなテーマとして「関西大学＝（イコール）ボランティア」を掲げました。情報機器の普及などにより人と直接的に関わる機会が少なくなりつつある現代において、ボランティア活動を通じて様々な人と交流し、多くの価値観に触れ、また仲間と協力し何かを成し遂げることは、学生にとって貴重な気づきと成長の機会になります。すべての関大生が豊かな人間性を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる学生となるよう、支援活動を広げ、大学の重要な柱となるように上記のテーマを掲げました。

ボランティアセンターによる2018年度の取り組みの一部を紹介いたします。

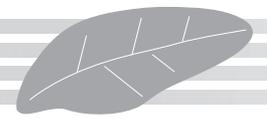
2018年度は、大阪北部地震、西日本豪雨、台風直撃による広域被害、関西国際空港の水没など、地震や水害などの大規模な災害に見舞われ、災害とボランティアがますます注目された年度でした。これに関し、2018年10月の関大防災DAYでは、学生スタッフの企画である「炊き出し訓練ボランティア」を実施しております。

2019年2月には、堺キャンパス近くの大和川河川で清掃活動ボランティアを実施いたしました。当日は、関大生と大学関係者だけでなく、本学と連携協定を結んでいるミズノ株式会社の社員も含めて約550名が参加しました。当日の様子はテレビ、新聞等にて取り上げられるなど社会的にも注目されました。

また、当センターは関西大学キャンパスが立地する吹田市・高槻市・堺市の行政や市民団体とも連携し、様々なボランティア活動にも積極的に取り組んで各方面から高い評価を得ています。詳細については、本報告書をご覧ください。

これからも、ボランティアセンターの多彩な活動と新たなチャレンジに対し、益々のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年8月



2018年度活動報告書 目次 (2018.4～2019.3)

2018年度ボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて …… ボランティアセンター長 岡本 哲和

1	2018年度ボランティアセンター事業報告 ……………	4
2	センターが取り組む環境保全活動 ……………	7
3	堺市との地域連携事業におけるボランティア活動(事務局:堺キャンパス事務室) ……	14
4	学生スタッフ育成プログラム ……………	15
5	各種講座 ……………	18
6	ボランティアセンター学生スタッフ活動記録 ……………	27
7	学生スタッフ代表からの一言 ……………	50
8	ボランティア団体への支援 ……………	51
9	広報活動 ……………	65
10	学生の声 ……………	71
11	資料 ……………	74
12	ボランティアセンター紹介記事 ……………	78
	編集後記 ……………	巻末

1 2018年度ボランティアセンター事業報告

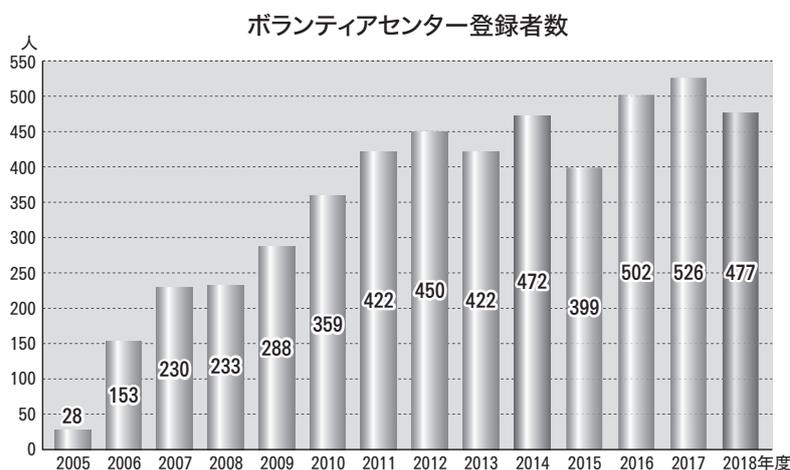
関西大学ボランティアセンターは、関大生のみなさんがボランティア活動を通して多くの学びや気づき、貴重な経験等が得られるよう、日々新たなボランティア活動支援を模索しています。2018年度は新たな取り組みとして、本学千里山キャンパス内で炊き出しボランティアを実施しました。2018年は様々な自然災害が日本列島を襲いました。6月18日に発生した大阪北部地震では、千里山キャンパスがある吹田市でも大きな被害がありました。当センターでも災害発生時に取り組めることは何かということを探し、本学で毎年開催している「関大防災Day」に参加し、炊き出しボランティアを実施しました。当日はボランティアセンター学生スタッフや学生有志を中心に、20kgのお米から大量のおにぎりを作成し、提供しました。

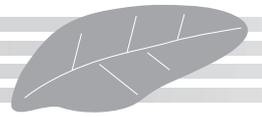
以上のように、新たな事業に取り組む一方で、従来よりセンターが取り組んできた事業にも継続的に取り組み、地域が抱える課題に向き合いました。これからも地域に支えられる大学として、社会からの要請に応えられることは何かを探しながら、活動を展開していきたいと考えています。

センター登録者は累計4,961名を突破しました。

データ ボランティアセンター登録者数

年度	登録者数
2005	28
2006	153
2007	230
2008	233
2009	288
2010	359
2011	422
2012	450
2013	422
2014	472
2015	399
2016	502
2017	526
2018	477
計	4,961





2018年度ボランティアセンター事業概要

1

学生スタッフ育成及び学生ボランティア団体への支援

- ・学生スタッフガイダンス
- ・学生スタッフ養成講座
- ・学生スタッフ養成合宿
- ・学生スタッフ代表者及びグループリーダーとのミーティング
- ・ボランティアセンター教職員と学生スタッフの懇談会
- ・学内ボランティア団体とのミーティング
- ・学生スタッフ活動報告会
- ・学生ボランティア団体合同企画ボランティアフェスティバル

2

本学学生のボランティア活動支援のための講座・プログラムの実施 (2018年度の主なもの)

- ・ボランティアセミナーin千里山キャンパス
- ・テーマ別講座 「学習支援」ってなんだろう? ～社会環境と子どもの学び～
- ・災害ボランティアガイダンス (計2回)
- ・テーマ別講座 レクリエーション講座
～笑顔にしよう、笑顔になろう!“お楽しみ”の作り方～
- ・コミュニケーションスキルアップ講座2018 (全3回)
～学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー
- ・琵琶湖ツーリズム! 関大生で考える環境ボランティアの未来 事後講座

3

学生スタッフによる活動

- ・学生スタッフによるボランティア情報紹介
- ・ボランティア体験隊
- ・ボランティア体験ツアー 関大クリーン大作戦
～千里山キャンパスとその周辺の清掃活動～
- ・ボランティア体験ツアー
関大クリーン大作戦in高槻
- ・ボランティア体験ツアー
関大クリーン大作戦in梅田
- ・ボランティア体験ツアー ～淀川掃除～
- ・関大×梅田 梅田キャンドルナイト2018
～希望の光～
- ・ボランティア体験ツアー
楽しく学ぶ!ナルホド世界ツアー@
キッズミュージアム
- ・ボランティア体験ツアー ～広げよう!未来の関大生へ!～ オープンキャンパスボランティア
- ・ボランティア体験ツアー ～関大防災DAY2018
備えよう!炊き出し訓練ボランティア～
- ・ボランティア体験ツアー ～千里にみんなの光を
灯そう!千里キャンドルロード2018ボランティア～
- ・学園祭企画
「近畿地方の魅力を子ども達に!～近畿巡りツアー～」
- ・ボランティア体験ツアー
～初めの一歩でつながる命～ 献血ボランティア
- ・ランナーを全力サポート!学生スタッフと一緒に応援しよう!! ～第8回 大阪マラソン給水ボランティア～
- ・ボランティア体験ツアー まちFUNまつりin関西大学2018
サイエンスセミナー&子どもの職業体験&ミズノ流忍者学校の補助ボランティア

他大学及び学外の機関との連携で行うもの

- ・ボランティア体験ツアー～ホテルを守ろう!新川を灯そう!～環境保全啓発ボランティア
- ・ボランティア体験ツアー～飛鳥光の回廊～
- ・琵琶湖ツーリズム!関大生で考える環境ボランティアの未来
- ・第2回 大和川大掃除
～力を合わせて大和川に輝きと感動を～
- ・ボランティア体験ツアー
～魅力発見!吹田クワイ収穫ボランティア～
- ・ボランティア体験ツアー
高槻景観美化ボランティア ～美しい花を守ろう!～

4

連携事業 大阪家庭裁判所との連携事業「大阪家庭少年友の会学生ボランティアプログラム」



2 センターが取り組む環境保全活動

活動イメージ



1 淀川掃除（ボランティア体験ツアー）

2007年5月11日に市民団体である、淀川掃除に学ぶ会の会長が来室され、同会が毎月第1日曜日に実施している淀川掃除のボランティア募集協力依頼を受けた。かねてからボランティア体験ツアーの実施を検討していた学生スタッフが2007年8月4日、ボランティアセンター職員と共に活動に参加し、これを一般学生に対して行う「ボランティア体験ツアー」と位置づけ、以後継続して実施している。



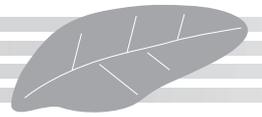
参加者数は、2018年11月には累計およそ6,900名となった。関大生にとって「気軽にできるボランティア」であり、親しみのある活動として定着している。2011年1月21日には、ボランティアセンター学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定された。淀川サポーターとは、淀川サポート制度の下、淀川河川事務所が管理する一定区間で活動していること、かつ定期的に環境保全整備活動を行っている団体に対して認定される制度である。また、この認定を受けたことや本事業が2011年度で5年目を迎えた記念として、この年から本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を2016年度まで6回にわたって開催した。



2 大和川掃除（ボランティア体験ツアー）

2007年度から行ってきた淀川掃除と2011年度から開催している年1回の淀川大掃除は、継続的に活動を続けてきたことが実を結び、清掃してきたエリアのゴミは年々減少し、大人数で掃除する必要がなくなった。そこで2016年度からは、他の河川の美化にも貢献したいという思いから新たな清掃エリアについて検討を重ねた。その結果、①堺キャンパスのボランティア団体WEVOと連携し、堺キャンパス近くの大和川の清掃を「ボランティア体験ツアー」として実施していること、②継続的に清掃しているものの大和川的环境状態がまだまだ芳しいとはいえないという2つの理由から、2017年度から大掃除の場所を淀川河川敷から大和川河川敷へと移すこととなった。2019年2月17日（日）には「第2回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」を開催し、淀川大掃除と同様にミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、550名もの人数が参加する大イベントとなった。参加者にとって、社会人や併設校の生徒といった普段関わることのないたくさんの方と関わる有意義な時間となった。





3 【認定NPO法人びわこ豊穰の郷との連携事業】

琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来

2017年度に初めて、認定NPO法人びわこ豊穰の郷が取り組んでいる特定外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動に参加した。「オオバナミズキンバイ」は水陸両生の水草で、その生息域を急速に拡大しそのまま放っておけば淀川水系全てに広がってしまう恐れがある。この水草は茎や葉の断片からも再生するため、機械ではなく手作業で根や茎をできるだけ残さないような駆除作業をする必要があり、ボランティアの力が求められている。継続的に取り組んでいる地域のボランティアの力で南湖ではオオバナミズキンバイは減少傾向にある。



ボランティアセンター開設時より清掃ボランティアに取り組む、多くの関大生が環境について考える場となった「淀川」の源流が琵琶湖である。また他にも、芥川での掃除やアユの産卵場整備、特定外来生物ミズヒマワリ駆除活動など、当センターでは琵琶湖を源流とする淀川水系で多様なボランティア活動を展開しており、今回関わりが深い琵琶湖での清掃活動を通し身近な環境問題について学びを深めた。

当日（3月2日）は、学生スタッフ13名、教職員4名がボランティアとして参加した。湖岸のゴミ拾いを行った後、琵琶湖の環境について考えるワークを実施し、参加者同士が意見交換を行うなど普段の生活のなかで自分達にできることが何かについて模索した。

4 【奈良県明日香村・関西大学との地域連携事業】

明日香村は、数々の日本の歴史的遺産を保有する地域であり、1972年の高松塚古墳の発掘調査は本学の故 網干名誉教授（明日香村名誉村民）の指揮のもと行われ、石室、壁画の発見をはじめ、明日香村と長きにわたり親密な関係を築いている。そして、2006年、あらためて地域連携に関する包括協定を結ぶに至った。本学では「明日香村と関西大学との地域連携に関する協定」に基づき、継続的な事業として連携を深め、学生ボランティアの依頼を受けるようになってから10年が経過している。明日香村の中心を流れる飛鳥川における、河川敷の環境保全及び景観改善を目的としたボランティア活動にも取り組んでいる。



飛鳥光の回廊（ボランティア体験ツアー）

明日香村が毎年開催している「飛鳥光の回廊」に、学生ボランティアの協力を仰ぎたい旨、本学の社会連携センターを通じて依頼があり、2011年度より明日香村との連携事業の一環として、当センターも本事業に参加している。



初年度は、当日のみ参加し、明日香村の方が予め考案したデザイン図を基に、灯籠を並べ点火する形であったが、2012年度より、企画の段階から学生が本事業にかかわり、学生スタッフと学生ボランティアと一緒に灯籠のデザイン図を考える形に変更し、より一層やりがいや達成感が感じられる活動になった。

2018年度は9月22日・23日に開催され、一般学生13名、学生スタッフ39名がボランティアとして参加した。今年度のキャンドルデザインは「明日香村の秋」をテーマに、当センターは石舞台古墳周辺を飾る灯籠のデザインの制作、配置、ろうそくの点火などを担当した。石舞台古墳では秋らしい赤とんぼや、いちょうの葉を表したデザインの地上絵が美しく輝いた。また、新たな取り組みとして島庄大字集会所にて、明日香村を訪れた人を対象として飛鳥時代に身につけられていた衣装である「古代衣装」の着付け体験を実施し、村内に古代衣装を身にまとった人が往来する景色が広がった。



5 【高槻市との連携事業】

摂津峡クリーンアップボランティア（ボランティア体験ツアー）



当センター学生スタッフは、高槻市の職員や高槻市社会福祉協議会と定期的にボランティアニーズに係る打合せを実施している。打合せ会の場で高槻市が2013年度から「クリーン&マナーアップ事業」として摂津峡公園周辺の清掃・啓発活動を実施していることを知り、ボランティア体験ツアーとして参画することとなった。

※2018年度は雨天のため中止となった。

6 【市民団体「新川姫蛍と花を守る会」との連携事業】

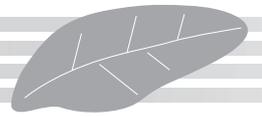
2011年1月に、学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所主催の「淀川サポート制度意見交換会」に出席し、その際に高槻市市民団体「新川姫蛍と花を守る会」の代表より声をかけていただいたことをきっかけに、関わることとなった。

～ホテルを守ろう！新川を灯そう！～環境保全啓発ボランティア（ボランティア体験ツアー）

当該団体は、高槻市の新川に生息する姫蛍の保護活動を中心に活動する団体であり、姫蛍は大阪府で準絶滅危惧種に指定されていることから、毎年「蛍の観賞会」を開催し、観賞者に対して啓発ビラを配付し、環境問題について考えてもらう機会としている。

学生スタッフは一般学生に、ボランティアとして「蛍の観賞会」の運営スタッフとして関わることで、環境問題について





考えてもらいたいという想いから、ボランティア体験ツアーとして企画し、活動に参加した。

当日（5月19日）は、一般学生21名、学生スタッフ9名が集まり、姫螢の啓発ビラ配りや、観賞会に彩りを添えるために新川の河川敷に灯籠を並べた。灯籠の配置については、事前に参加学生がデザインを考え「KANDAI♡ヒメボタル」という文字に決定し、デザイン図を基に設置した。



7 【NPO法人 花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブとの連携事業】

高槻景観美化ボランティア ～美しい花を守ろう～（ボランティア体験ツアー）

高槻市からの紹介を受け、2017年度よりNPO法人花と緑のまちづくり高槻景観園芸クラブの活動である「花植え活動」へ学生スタッフが参加した。

本事業は、地域の方との活動と交流を通して、身近な環境美化について考える機会となることから、ボランティア体験ツアーとして実施し、当日（7月8日）は、一般学生4名、学生スタッフ10名が参加して、城跡公園の花壇の整備を行った。土を掘り返して枯れた植物を取り除き、夏に植える植物のための土壌づくりを行った。



8 【吹田市との連携事業】

魅力発見!! 吹田クワイ収穫ボランティア

吹田市から紹介を受け、西農園にご協力いただき吹田の特産物である「吹田くわい」の収穫作業に参加させていただいた。

当日（12月16日）は、一般学生5名、学生スタッフ10名が集まり、胴長を着てくわいの収穫作業を行った。水分を含んだ畑に入り地中にあるくわいを掘り出す作業は大変ながらも見つけた時の喜びもひとしおであった。



9 エコキャップ運動

身近なことからできる環境保護・国際協力活動として、2008年7月からエコキャップ運動を開始した。

エコキャップ運動は、NPO法人「e-kotonet」などが中心となり行っている活動で、その後一般社団法人イーコトキャップ、そして2018年1月からは一般社団法人子ども食堂に受け継がれ回収を行っている。エコキャップ運動協賛企業がペットボトルキャップを回収し、リサイクルすることによって得た利益を認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付するというものである。

認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付金は、unicefと連携してワクチンが支援先の子どもたちに送られる。また、2018年度（2019年3月31日現在）回収を依頼したキャップの累計総数は286,600個であった。

10 【大阪家庭裁判所との連携事業】

大阪家庭裁判所において行われている、「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。当活動は開始から13年目を迎え、活動の意義を考えると、学生にとっても真摯に取り組むインセンティブとなっており、家庭裁判所調査官と大阪家庭少年友の会の両者によって学生たちが活動しやすいように、様々な工夫を検討していただいている。例年15名程度の募集であったが、大阪家庭少年友の会と検討し、募集人数を増やし、2018年度は28名の登録があった。



<学生募集及びボランティア登録・実施の過程>

- ①ボランティアセンターが法学部（刑事法、親族・相続法など裁判所関連）、社会学部（心理学関連）、政策創造学部（刑法、刑事政策）、大学院心理学研究科などの教員へ協力依頼を行う。
- ②教員の推薦された学生のみ、登録手続きに進む。
- ③登録した学生への大阪家庭裁判所調査官等による研修を実施する。
- ④少年の都合に合わせて活動計画を調査官とともに相談する。

2006年度	9名
2007年度	16名
2008年度	14名
2009年度	17名
2010年度	14名
2011年度	19名
2012年度	16名
2013年度	17名
2014年度	15名
2015年度	15名
2016年度	13名
2017年度	19名
2018年度	28名

<研修・施設見学などの実施結果>

5月30日	6月4日	11月28日	2月18日
オリエンテーション	情報交換会	少年院見学	活動報告会
大阪家庭裁判所8階 中会議室（20名）	本学・東体育館 多目的ルーム（9名）	奈良少年院（4名）	プリムローズ大阪 （9名）
調査官からの試験観察制度・少年審判・学習指導についての説明を受け、裁判所庁舎の見学を行った。	学習指導実績のある学生から実際の活動例と工夫を紹介し、質疑応答を行った。	長期処遇専門少年院について、更正施設の概要と特色の説明を受けた後、実際の施設の見学を行った。	今年度、学習指導実績のある学生から、少年の活動実績と感想を述べ合い、調査官を交えて意見交換を行った。

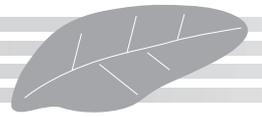
<家庭裁判所調査官からのコメント>

○指導回数4回（中3）のケース

交友関係に課題のあった少年について、年齢の近い健全な大学生との会話を通して少年の自信の回復につなげたいと思い、活動してもらいました。ボランティア学生は学習指導を通じた交流の中で、とにかく少年の話に耳を傾けつつ少年を受け入れた。そのため少年自身も「自分の思いをちゃんと言えた」と語っており、少年にとって、とてもいい経験となりました。

○指導回数3回（中3）のケース

少年は出会って間もなくは緊張のために打ち解けられないような感じがしていたが、ボランティア学生が話しやすい話題から会話をしてくれたため、学習指導をうまく軌道に乗せることができました。



○指導回数 6 回（中 3）のケース

学校に対して不満があった少年に対して、ボランティア学生の方が学習指導の際に、少年の述べる不満にも耳を傾けつつ学習指導してくれたことが少年の生活の安定にもつながりました。

<家庭裁判所調査官からの総括コメント>

○ボランティア学生の皆さんが少年の学習指導をスムーズに実施するために、様々な工夫をしながら活動されていることを感じた。

少年に向き合い一人一人の学習の程度を図りながら、指導レベルを合わせ個別に対応してもらうことで、少年にとって「できた」という経験を得ることはとてもプラスに働くことだと思います。自尊心が低い少年にとってはなおさらだと感じる。少年にとってはこの学習指導はとても良い経験で、必要なことであると思う。

調査官という立場から、ボランティアの学生に少年のペースに合わせて学習指導をしてもらえるようボランティア学生の方にリクエストをすることもある。限られた時間内でボランティア学生の方は熱心に学習指導に取り組んでいただいていると感じる。試験観察期間中におけるこの学習指導の活動について今後も御協力よろしく申し上げます。

○少年にとって試験観察中は、担当調査官との生活状況の確認についてのやり取りが中心になりますが、学習指導を通して少し年上の健全な大学生と交流することが、少年にとってプラスになっていると感じた。

○少年にとって、ボランティア学生のような健全な大学生と関わる機会がないからこそ、この学習指導は少年の心に残る経験であると感じる。少年の中には「大人＝怒ってくる存在」と思っている子もいる。しっかり勉強をする機会が今まであまりない少年が多いからこそ、ボランティア学生の方から個別に学習指導をしてもらうことは本当にいい経験であると思う。

※文中で女子を「少年」と表記しているが、例えば少年法では「満 20 歳に満たない者」を指し、児童福祉法では「小学校就学から満 18 歳に達するまでの者」を指す。いずれも男子と女子を含んでいう。

3 堺市との地域連携事業におけるボランティア活動(事務局:堺キャンパス事務局)

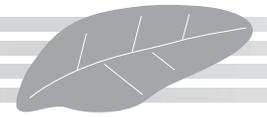
堺キャンパスのある堺市と関西大学は2008年に基本協定を締結しており、大学の教育研究活動と地域資源を融合した連携事業を実施している。その中で人間健康学部の学生は、堺市の小中学校に出向いて児童生徒の運動促進を図る取り組みに協力したり、地域の子どもたちを対象にスポーツ企画を運営するなど、講義だけでは学べない経験を積み、大きく成長している。また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元し、地域が抱える諸課題の解決に寄与することもめざしている。2018年度は以下の事業にボランティアとして参加した。



小学生のための新しいあそび場
(スポーツ教室)

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア 学生数 (行事参加者数)	会場
堺市民対象 ソフトボール スクール	5/27 (日)	9:30～ 11:30	支援学級中学生 ソフトボール交流教室	関西大学 人間健康学部教授 小田 伸午 関西大学 体育会 ソフトボール部監督 吉末 和也	参加者なしの ため不開講 29名 (55名)	関西大学 堺キャンパス Evergreen
		13:00～ 15:30	女子中学生対象 ソフトボール教室			
社会的養護の普及・啓発 および社会的養護下にある 子どもの自立支援事業	4月 ～ 3月	—	学生が施設を訪問して 学習指導・ スポーツ指導	—	延べ41名	児童養護施設 愛育社
					延べ15名	児童養護施設 清心寮
	12/16 (日)	13:00～ 16:00	スポーツ指導 ソフトボール教室	関西大学 体育会ソフトボール部監督 吉末 和也	延べ23名	児童養護施設 泉ヶ丘学院
					延べ9名	児童養護施設 東光学園
住吉祭神輿渡御 ボランティア2018	8/1 (水)	13:00～ 20:00	住吉祭神輿渡御 ボランティア	—	80名	大和川～住吉大社 宿院頓宮
香ヶ丘商店街を中心とした 浅香山地区のまちづくり	10月 ～ 2月	15:00～ 18:00 もしくは 15:00～ 18:30	学習支援 浅香山学童ルーム	—	16回開催 38名 (11名)	浅香山商店街 Café ここいま
	7月 ～ 3月	10:00～ 12:00 もしくは 14:00～ 16:00	スポーツ教室 小学生のための 新しいあそびの場		15回開催 122名 (200名)	関西大学 堺キャンパス 体育館アリーナ、 Evergreen
人間健康学部 学生ボランティア ネットワーク	6/1 (金)	15:30～ 17:30	三国丘中学校 サッカー部での サポート	関西大学 体育会サッカー部所属 人間健康学部生	1名	堺市立三国丘中学校
	6/8 (金)	15:30～ 17:30			1名	
	6/15 (金)	15:30～ 17:30			1名	
	6/29 (金)	12:30～ 14:30			1名	
自由研究フェスティバル in 関西大学	8/2 (木)	10:00～ 15:00	第2回 自由研究 フェスティバル in 関西大 学	—	210名 (355名)	関西大学 堺キャンパス
堺市小学校連合運動会 ボランティア活動	10/11 (木)	9:00～ 15:00	堺市小学校連合運動会 での企画・運営	—	52名	堺市金岡公園 陸上競技場・野球場
堺区教育・健全育成会議 子どもの居場所事業と 連携した早朝食堂+ 子どもの居場所づくり事業	12/14 (金)	7:00～ 8:00	関大 モーニング食堂	—	70名 (20名)	関西大学 堺キャンパス食堂
	1/18 (金)	16:00～ 19:00	関大 イブニング食堂		45名 (15名)	
平成30(2018)年度 体力向上推進事業	4月 ～ 3月	—	「体力向上スクールサポ ーター」として堺市内の体力 向上重点校で、レクレ ーションや体育授業、クラブ 活動等を補助	—	1名	堺市立上神谷小学校
					1名	堺市立東陶器小学校
					1名	堺市立神石小学校
					1名	堺市立津久野小学校
					2名	堺市立津久野中学校

堺市と関西大学との地域連携は、関西大学の地域貢献協力資金により運営されており、2010年度から開始され、2018年度で9年目を迎えている。



4 学生スタッフ育成プログラム

ボランティアセンターでは、「ボランティア職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念とする学生スタッフを置いている。

ボランティアセンター職員は、学生スタッフが主体的に企画・運営ができるようにさまざまな支援を行っている。また、学生スタッフは関大生にボランティア情報を紹介するために、研修及び活動調査の一環として「ボランティア体験隊」を実施している。

以下は、当センターが実施しているプログラムである。

1 ボランティアセンター学生スタッフガイダンス

学生スタッフになりたいという学生に対して、職員が1時間のガイダンスを行っている。内容としては、ボランティアセンター（ボランティア活動支援グループ）の位置づけ、クラブ・サークルとの違い、大学からの支援が手厚いこと、自分たちがボランティア活動に参加するだけの団体ではなくボランティアの魅力を発信する団体であることなどを中心に、ボランティアに関する諸注意や学生団体の運営についてのアドバイスを行っている。

2 ボランティアセンター学生スタッフ養成講座

当センターでは学生スタッフ自身のスキルアップを目指した研修にも力を入れている。

第1回コーディネート講座では、ボランティアコーディネートを行う上で欠かせない「傾聴」のテクニックについて学ぶ機会を設け、実践形式で理解を深めた。

第3回では、養成合宿前に当センターでの半年間の活動を振り返りながら、「自分新聞」を作成した。作成した記事を学生スタッフ同士で披露し合い、互いの成長を確認する機会となった。

また、「2018年度に達成すべき目標」についてディスカッションを実施した。互いの想いを共有し、意見交換することによって、普段気付くことができていなかったスタッフ間の意識の差や考え方、不足しているものや得意としていることなどを共有することができ、新年度を迎えるにあたっての意識の統一をはかる機会となった。

講座名	コーディネート講座
日時	第1回 2018年7月4日（水） 16:20～19:30
場所	千里山キャンパス 東体育館 多目的ルーム
講師	ボランティア活動支援グループ 村上 翔也
内容	傾聴力の養成及びボランティアコーディネートの実践練習

講座名	ボランティアセンター学生スタッフ養成講座（リーダー研修会） みんなが幸せになる“脳力”の活かし方 ～前編～
日時	第2回 2019年1月10日（木） 18:00～20:00
場所	千里山キャンパス 東体育館 多目的ルーム
講師	MIRACREATION 株式会社 取締役 北川 賢司 氏
内容	グループワークやマンダラートの作成を通じてボランティアセンター学生スタッフが2019年の個人目標設定を行う。

講座名	養成合宿（春）前の活動振り返り講座
日時	第3回 2019年2月22日（金） 10:00～11:30
場所	千里山キャンパス 東体育館 多目的ルーム
内容	①一年間の自分のボランティア活動を振り返った新聞を作成する ②①で振り返った内容を元に、自分に足りなかったところは何かを考え、春合宿のワークで取り組むマンダラートの中心となる目標を考える ③ボランティアセンター職員の話（1年間の振り返りとして、良かった点や悪かった点について）

講座名	ボランティアセンター学生スタッフ養成講座（リーダー研修会） みんなが幸せになる“脳力”の活かし方 ～後編～
日時	第4回 2019年3月25日（月） 第1部 10:00～11:30 第2部 13:00～14:30
場所	千里山キャンパス 東体育館 多目的ルーム
講師	MIRACREATION 株式会社 取締役 北川 賢司 氏
内容	2月25日（月）・26日（火）の養成合宿で決定した年度目標を達成するための方法について、マンダラートを用いて検討を行う。

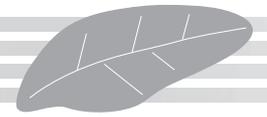
3 ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（於：飛鳥文化研究所）

9月9日（日）～10（月）に、奈良県の飛鳥文化研究所にて夏の養成合宿を実施した。松村副所長、鈴木次長、当センターからは小川、村上、三浦が参加し、学生スタッフは53名が参加した。合宿では、「学生スタッフのチームワークを高め、未来に繋がるボランティアセンターについて考えよう」をテーマに話し合いを行った。合宿班が考えた様々なワークを通じ、参加者は「自身が学生スタッフとしての活動の当事者である」ことを再認識し、今後の活動への意欲を高める良い機会となった。

春の養成合宿は、2月25日（月）～26日（火）に同じく飛鳥文化研究所で実施した。岡本所長、松村副所長、鈴木次長、当センターから堀グループ長、小川、村上、三浦が参加し、学生スタッフは23名が参加した。合宿では、「学生スタッフの当事者意識の向上」と「学生スタッフの未来を考える」をテーマとし、グループごとに熱く意見を交わした。ワークを通して、1人ひとりのボランティアに対する活動意欲を高める貴重な機会となった。

4 ボランティアセンターと学生スタッフ代表者及びグループリーダーとのミーティング

学生スタッフへの日常的な支援として、月に1回程度職員と代表者がミーティングを行っている。企画準備の進捗状況や団体運営についての相談が中心ではあるが、職員と学生スタッフのコミュニケーションの場にもなっている。代表者と話し合うことで、その時点の学生スタッフ全体の強みや弱みを知り、団体として成長していけるよう支援している。また、学生スタッフは5つの班に分かれて活動していることから、各班の間での情報共有の場として機能するように、職員を交えてグループリーダーとのミーティングを行っている。



5 ボランティアセンター学生スタッフによる「ボランティア体験隊」

学生スタッフの活動の目的である「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ために、当センター職員から「まず自分たちがさまざまなボランティア活動に携わることが重要である」と学生スタッフに働きかけたことを機に、2010年から実施している。本企画は、①学生スタッフが自らの体験を基に関大生にボランティアの楽しさ、やりがいを伝えること、②ボランティア募集团体代表者または担当者にお話を伺い、関大生の活動状況を調査することを目的に行った。また、機関紙『Volury』でも「ボランティア体験隊」を連載し、学生スタッフが体験したボランティアの魅力を伝えている。

6 ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会

活動報告会では、2018年度の学生スタッフの取り組みについて代表・副代表および各班リーダーが報告し、教職員との意見交換（学生スタッフに期待すること等）、および4年次生の4年間の活動の振り返りを行った。

また、各班の発表内容を受けて岡本所長、松村副所長、福田人間健康学部准教授より講評をいただいた。本報告会へは、発表者に加え共に活動に取り組んできた1・2年次生も出席し、成果及び課題を一緒に振り返った。講評で頂戴したご意見は、学生スタッフ内で共有し、次年度の活動に繋げることとした。

日 時	2019年3月18日（月） 14：30～16：00
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階 ミーティングルーム
出 席 者	岡本所長・松村副所長・福田人間健康学部准教授（ボランティア連絡協議会委員） 堀グループ長・ボランティアセンター職員（小川、村上、山本、三浦、大須賀）、 宇田川国際教育グループ長※、授業支援グループ職員（中井）※ 学生スタッフ幹部・各班リーダー・学生スタッフ ※宇田川国際教育グループ長、中井スタッフは2019年度よりボランティアセンターに異動

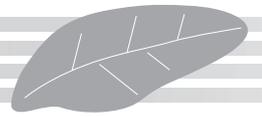
5 各種講座

ボランティアセンターでは、ボランティアに関わるきっかけ作りとしての講座やコミュニケーション能力の向上のための講座などを実施している。

* * * * * 講座日程表 * * * * *

月	日	時 間	講 座 名
5	29	18:00～19:30	ボランティアセミナーin千里山キャンパス
6	27	18:00～19:30	テーマ別講座 「学習支援」ってなんだろう？ ～社会環境と子どもの学び～
	28	14:40～16:10	災害ボランティアガイダンス
7	4	14:40～16:10	テーマ別講座 レクリエーション講座 ～笑顔にしよう、笑顔になろう！“お楽しみ”の作り方～
	31	15:00～16:30	第2回 災害ボランティアガイダンス
11	29	16:20～17:50	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～① 聴き上手になるためのコツ
12	6	16:20～17:50	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～② 話し上手になるためのコツ
	13	16:20～17:50	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～③ コミュニケーションカアップのためのコツ
3	2	13:00～14:00	琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来 事後講座





* * * * 各種講座・講演会 * * * *

1 ボランティアセミナー in 千里山キャンパス

ボランティアに関心のある学生やボランティアに参加したことがない学生に対して、活動へのやりがいや楽しさを伝え、活動に対する不安や疑問を解消させることで、ボランティア活動への参加を促すこと、また、学生にボランティアセンターを気軽に利用してもらうために、ボランティアセンターで受けられるサービス等についての紹介を行うことを目的とし開講した。講師からボランティアの種類、活動内容などの幅広い紹介をはじめ、講師ご自身のエピソードも交えながらお話しいただいた。ボランティア経験者から「ボランティアの魅力」についてお話しいただくことで、参加学生にとって自分事



として捉えやすい内容であったと思われる。講師の話の後に実際にボランティア活動をしている学生から「ボランティア活動を始めたキッカケ」や「ボランティア活動のやりがい」等の話を受講者へ伝えた。参加した学生はメモを取ったり、セミナー終了後に講師に質問をするなど、ボランティア活動に興味を抱いている様子を伺うことができた。

日 時	2018年5月29日(火) 18:00～19:30
場 所	千里山キャンパス 東体育館 多目的ルーム
講 師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏
受講者数	26名

【受講者の声】

- ・今後、ボランティアに参加してみたいと思い参加しましたが、ボランティアに関する情報が知れて自分が興味のあるボランティアを見つけることができました。 (システム理工・4年次生)
- ・今までボランティア活動には参加したことがなく、どんなボランティアがあるのか興味があつたので参加しました。自分が考えていたよりもボランティアの幅は広く、詳しい話が聞けてよかったです。今後参加してみようと思いました。 (政策創造・1年次生)

2 ボランティアセンター・テーマ別講座

「学習支援」ってなんだろう？ ～社会環境と子どもの学び～

「学習支援」とはどのような活動のことを指すのか、また、どのような背景（社会問題）から学習支援が行われているのかについて本学学生に広め、伝えることを目的とし開講した。

当センター内のボランティア掲出状況を見てもわかるように、学習支援に係わるサポートを求める声は年々増えており、社会におけるボランティアニーズも高まっている。学習支援が多く求められる背景には、家庭における金銭的な理由だけではなく、子どもが「ひとりぼっち」の状態に陥っているケースも多く見られるとのことである。今回は現場で様々な取り組みをしておられる講師に現状をお話していただいた。

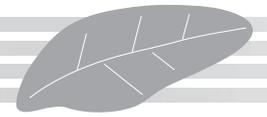


当センターには学習支援ボランティアに興味のある学生が多く訪れているため、適切なボランティアコーディネートを行うことで、学習支援を求める環境にある子どもたちとボランティア学生を繋げていきたい。

日 時	2018年6月27日（水）18：00～19：30
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C401教室
講 師	特定非営利活動法人 あっとすくーる 代表 渡 剛 氏
受講者数	11名

【受講者の声】

- ・子どもたちが大学生と関わっていくなかで、いい方向へ変わっていく様子を知って、素晴らしいことだと思いました。（社会・1年次生）
- ・受講する前と後で学習支援に対する印象が大きく変わり、考えさせられました。新しいことを学ぶことができ良かったです。（政策創造・1年次生）



3 災害ボランティアガイダンス

連休や夏季休暇を利用して、2018年6月18日に大阪府北部を震源として発生した地震や6月～7月にかけて西日本を中心に梅雨前線による大雨で河川の氾濫や洪水、土砂災害により、生命や身体に危害を受ける災害が発生し、被災地へ災害・復興支援ボランティアに行くことを検討している学生や災害・復興支援ボランティアに興味がある学生が多くいる。

学生の「災害・復興支援ボランティア」活動に対する意識と、身体的、精神的な安全確保の意識を高めるとともに、十分な情報を得たうえでより良い意思決定が行えなければならない。そのために、最新のボランティア活動状況や、被災地へ行く際の心構え、学内手続きについて周知することを目的とし開講した。

第1回は6月18日に発生した大阪府北部地震後の高槻市や茨木市での災害・復興ボランティア活動の現状や実際に活動をしている梅田氏の体験談、災害ボランティアに行く際の服装や持ち物、食事のことなど具体的な注意すべきことの話があった。

第2回は平成30年7月豪雨の災害・復興ボランティア活動の現状についての動画を用いて紹介し、実際に活動をしている新宅氏の体験談、災害ボランティアに行く際の注意点等の話があった。

実際に災害ボランティア活動に参加している講師から被災地の現状を聞くことにより災害ボランティアへの関心を高め、学生にも分かりやすい内容であった。



日 時	第1回 2018年6月28日(木) 14:40～16:10
場 所	高槻ミュージズキャンパス 西館 M602教室・西館2階マルチミーティングルーム [同時中継] 千里山キャンパス 新関西大学会館南棟3階会議室
講 師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏
受講者数	千里山7名・高槻ミュージズ9名 合計16名

日 時	第2回 2018年7月31日(火) 15:00～16:30
場 所	千里山キャンパス 東体育館 多目的ルーム
講 師	社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 地域福祉課 新宅 太郎 氏
受講者数	14名

【受講者の声】

- ・実際に地震を経験して、災害の恐ろしさを身を持って知り、少しでも被災地の役に立ちたいと思い参加しました。今回参加してみて、実際の流れがわかったので、これからどう行動すれば良いか分かりました。(経済・4年次生)
- ・西日本豪雨災害被災地でのボランティアを検討していたので、今回参加しました。今まではボランティアに対する知識が無く、無知すぎて行くことをためらっていましたが、情報収集をして、自分にできることがあるなら行ってみようと思いました。(社会・3年次生)

4 ボランティアセンター・テーマ別講座

「レクリエーション講座」～笑顔にしよう、笑顔になろう!“お楽しみ”の作り方～

本講座は、現在子どもに関わるボランティアに携わっている学生はもちろん、これから活動してみようという学生、また、子ども以外でも人と人とを繋ぐ役割を担う学生に「レクリエーションとは何か」について学ぶ機会を提供し、様々な“遊び”を体験することで、レクリエーションの幅を広げてもらうことを目的とし開講した。

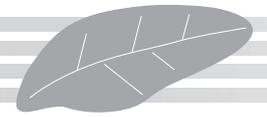


ボランティア活動では、子どもと関わる機会が多いが、楽しんでもらうために何かしようと思っても、咄嗟に対応することは困難である。レクリエーションは非常にシンプルで、誰でも参加でき、楽しめるものでありながら、実はとても奥の深いものである。初対面の人同士が顔を合わせることが多いボランティア活動において、始めにレクリエーションを行うと、まるで魔法をかけたように参加者同士が打ち解け仲良くなることができる。本講座を受講して様々なレクリエーションの引き出しを手に入れた学生には、是非ボランティア活動の現場で実践して、“お楽しみ”をつくって欲しい。

日 時	2018年7月4日(水) 14:40～16:10
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C401 教室
講 師	関西大学 人間健康学部 涌井 忠昭 教授
受講者数	18名

【受講者の声】

- ・すごく楽しかったです。自分が実際に体験し、理論や使い方を教えてもらえてよかったです。障がいのある方や、子どもなど対象が変われば工夫することができるんだなと気付くことができました。(政策創造・4年次生)
- ・じゃんけん足し算や掛け算において、もし片手が不自由な人がいたらどうするか考えたとき、私はすぐに思いつくことができませんでした。身体や年齢に合わせてみんなが楽しめるレクリエーションをしていくことが大事だと学びました。(文・3年次生)



5 学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～（全3回）

ボランティア活動を始めたいが、「自分に自信がなく、最初の一步が踏み出せない」という学生もいる。そういった学生の不安を解消するために、「自分らしいコミュニケーションの取り方」を知ってもらう機会を提供することを目的とし開講した。



講座全体を通して、色々な人とのコミュニケーションの機会が持てるように、毎回メンバー構成を変更して様々なグループワークに取り組んだ。同じものでも視点や視座・視野が異なれば見え方が変わる。相手の立場に立つことや、相手の心を知ろうとすることはコミュニケーションの一步である。学生生活では新たな出会いが溢れているが、その相手はそれぞれ異なった個性を持っている。万人に適応する魔法の言葉は無いかもしれないが、コミュニケーションをとる際の「自分の意識」の持ち方は変えることができる。本講座を通して学びとったことを学生生活で活かし、各自に合ったコミュニケーションの取り方を身に付けてほしい。

日 時	2018年11月29日～12月13日（毎週木曜日・全3回）16：20～17：50
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階ミーティングルーム
講 師	NPO法人 心のサポート・ステーション 代表理事 本学ハラスメント相談員 宮本 由起代 氏
受講者数	第1回 11月29日（木） 14名
	第2回 12月6日（木） 9名
	第3回 12月13日（木） 14名

【受講者の声】

- ・今回参加して、相手が心を開きやすくなるような聞き方が大事だと思った。自分が話していて話しやすいような相手の人が、どのように聞いているのかを観察してマネしてみるのもいい方法だと思いました。（社会・1年次生）
- ・アサーションという単語を初めて知ったが、自分の気持ちを相手に伝えることができ、尚且つ、誰も嫌な気持ちにならずに平和でスムーズなコミュニケーションを取ることができる手段なので、今後活用していきたいと思いました。（経済・1年次生）

6 琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来 事後講座

学生スタッフは定期的に「淀川掃除」を実施しており、環境問題に取り組んでいる。また2016年9月には、本学創立130周年記念事業として当センターで「富士山清掃ボランティア」を行った。その行程の中で富士山が抱えている環境問題についての講座を行い、参加者の理解が深まった。そして、同年12月には環境講座「みんなで考える！環境ミーティング」を行い、参加者が環境問題を“自分事”として捉えてもらうためのワークを行い、講座終了後に淀川掃除を行った。2017年度は身近な環境問題を考える場として、淀川掃除10周年という節目の年であり、淀川のもっとも大きな水源であり近畿の水がめといわれる琵琶湖の湖岸において、清掃活動だけでなく、環境系のボランティア全般についてその意義と可能性を大学生の目線で考えることを目的とし、ボランティア活動後に開講した。



午前中は琵琶湖古来の植物を枯らし、生態系を破壊する特定外来生物「オオバナミズキンバイ」駆除ボランティア活動を実施し、午後から琵琶湖の環境講座およびワークを行い参加者全員で環境ボランティアの未来を考えた。本講座では、琵琶湖における外来植物駆除活動を継続的に実施しているNPO法人国際ボランティア学生協会の学生からも活動紹介をしていただいた。講座を通して、「オオバナミズキンバイ」が猛威を振るう琵琶湖の現状を知り、琵琶湖の赤野井湾の水質改善や豊かな生態系を取り戻すために一人ひとりが一体何ができるのかを考える機会となった。

日 時	2019年3月2日(土) 13:00～14:00
場 所	赤野井自治会館
講 師	認定特定非営利活動法人びわこ豊穰の郷 理事長 金崎 いよ子氏
受講者数	13名

【受講者の声】

- ・琵琶湖の外来種による被害が深刻であるということ、参加した私たちが多くの人に発信、伝えていくことが大切であると思いました。(社会・2年次生)

注目

各種講座・講演会のポスター

講座・講演会のポスターは、具体的な内容や写真などを入れて学生が興味を引くデザインに工夫しています。

ボランティアセミナー

in 千里山キャンパス

日時 5月29日(火)
18時00分～19時30分

このセミナーに参加すると…
*「ボランティア」に興味を持ちたいけれど、どうしたらいいかわからないという不安を解消します！
*ボランティア活動の種類と魅力、どんなボランティアがあるのかのわかります！
*実際にボランティア活動体験をすることができます！

講 師 千里山キャンパス 実務教育部 多目的ルーム
講 師 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏
募集人数 30名(先着順)
対 象 本学学生・教職員

申込方法は、以下のいずれかの方法でお願いします。
①窓口申込み 千里山キャンパス 実務教育部1階ボランティアセンター(5月29日 9時00分～17時00分)
②メール申込み volunteer@kandai.jp宛にて 件名「ボランティアセミナー」を記入し送信してください。
募集締切日 5月25日(金) 17時00分まで

2018年5月 ボランティア活動支援グループ

ボランティアセミナー
in 千里山キャンパス

「学習支援」ってなんだろう？

～社会環境と子どもの学び～

1. 日 時 2018年6月27日(水) 18:00～19:30
2. 会 場 千里山キャンパス 第2学舎 C401教室
3. 講演内容 ・最近よく聞かれる「学習支援」について
・子どもの学習について
・大学生が果たされる理由
※内容は一部変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
4. 講 師 特定非営利活動法人 あつとすくーる 講 師 氏
5. 参加費 無料
6. 募集人数 30名(先着順)
7. 申込締切 6月25日(月) 17:00まで
8. 申込み 以下のいずれかによりお申込みください。
①窓口申込み 実務教育部1階ボランティアセンター(月～土曜日の9:00～17:00)
②メール申込み volunteer@kandai.jp宛にて、件名「学習支援講座」を申込み
本文に「学番号等、氏名(ふりがな)、携帯電話番号」を入力し、送信してください。

子ども好きな方、誰かの成長のために学びたい方、
教師を目指している方…
聞いている子ども達を笑わせるのはあなたです！！
詳しくは…産後期1階ボランティアセンターまでお越しください！

2018年6月 関西大学ボランティアセンター

「学習支援」ってなんだろう？
～社会環境と子どもの学び～

レクリエーション講座

～笑顔にしよう、笑顔になろう！“楽しみ”の作り方～

大勢の人と一緒に楽しみたい！初対面でも緊張してこわばった顔を見たくない！そんな悩み、経験したことはありませんか？
本講座では、そんな悩みを解消できる“魔法”「レクリエーション」について学んでいきます。
多くの方の参加を心よりお待ちしております！

～ 詳細 ～
講 師 本学 人間健康学部 教授 高井 忠昭 氏
日 時 7月4日(水) 14:40～16:10
場 所 千里山キャンパス 第2学舎 C401教室
参加条件 本学学生(無料)
募集人数 40名(先着順)
申込締切 6月29日(金) 17時00分まで
募集方法：
①窓口申込み 産後期1階ボランティアセンター(月～土曜日の9:00～17:00)
②メール申込み volunteer@kandai.jp宛にて件名「レクリエーション講座」を申込み
本文に「学番号等、氏名(ふりがな)、携帯電話番号、メールアドレス、過去に開催された講座(ある・ない)」を入力し送信してください。

2018年6月6日 ボランティア活動支援グループ

レクリエーション講座
～笑顔にしよう、笑顔になろう！
“お楽しみ”の作り方～

一歩踏み出す！ボランティアの世界

災害ボランティアガイダンス

6月28日(木)
14:40～16:10

災害ボランティアはもともとボランティア活動に参加したことのない興味がある方必見です！
「災害ボランティアってどんな活動？」
「災害ボランティア活動をするにはどんな準備が必要？」
「災害ボランティアはもともとボランティアに関する様々な疑問を解消するガイダンスです。」
少しでも興味のある方は、お気軽にご参加ください！

ボランティアセンターでは、「災害ボランティアガイダンス」を以下のとおり実施します。
場 所 高槻キャンパス : 西館M02教室
千里山キャンパス : 新関西学生会館南棟3階会議室
高槻キャンパス : A棟1階 応接室A
堺キャンパス : A棟1階 会議室B

講 師 社会福祉法人 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏
対 象 本学学生

ボランティア団体KUMCから復興支援ボランティア体験もあります！
申込み方法は、2通りあります。いずれかの方法でお申込みください。
①窓口申込み 千里山キャンパス 実務教育部1階ボランティアセンター(月～土曜日の9:00～17:00)
高槻キャンパス オフィス(月～金曜日の10:00～17:00)
②メール申込み volunteer@kandai.jp宛にて 件名「災害ボランティアガイダンス参加希望」を申込み
本文に「学番号等、氏名、携帯電話番号」を入力し送信してください。

2018年6月 関西大学ボランティアセンター

第1回
災害ボランティアガイダンス

第2回

災害ボランティアガイダンス

7月31日(火)
15:00～16:30

災害・復興支援ボランティアはもともと、ボランティア活動に参加したことのない方も、是非この機会にご参加下さい！
「災害ボランティアってどんな活動？」
「災害ボランティア活動をするにはどんな準備が必要？」
「災害ボランティアはもともとボランティアに関する様々な疑問を解消するガイダンスです。」
少しでも興味のある方は、お気軽にご参加ください！

ボランティアセンターでは、「災害ボランティアガイダンス」を以下のとおり実施します。
場 所 関西大学 千里山キャンパス 実務教育部 多目的ルーム
講 師 社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 主幹 新宅 太郎 氏
対 象 本学学生

申込み方法は、2通りあります。いずれかの方法でお申込みください。
①窓口申込み 千里山キャンパス 実務教育部1階ボランティアセンター(月～土曜日の9:00～17:00)
高槻キャンパス オフィス(月～金曜日の10:00～17:00)
②メール申込み volunteer@kandai.jp宛にて 件名「災害ボランティアガイダンス参加希望」を申込み
本文に「学番号等、氏名、携帯電話番号」を入力し送信してください。

2018年7月 関西大学ボランティアセンター

第2回
災害ボランティアガイダンス

学び、自分のスキルに

学生生活で役立つ コミュニケーションスキルセミナー

学生生活を充実させるために欠かせないスキルであるコミュニケーション力。学生生活だけでなく、ボランティア活動やアルバイト・就職活動においてもコミュニケーション力が重要な役割を果たします。コミュニケーションのコツを学びながら、誰でもコミュニケーション力をアップさせることができます。本講座では、ワークしながら、聞き上手になる、話し上手になる、コミュニケーションのアップのための3つのコツを学ぶことができます。学びが楽しくなるだけでなく、スキルアップも期待できます。

コミュニケーションのコツを学びながら、誰でもコミュニケーション力をアップさせることができます。本講座では、ワークしながら、聞き上手になる、話し上手になる、コミュニケーションのアップのための3つのコツを学ぶことができます。学びが楽しくなるだけでなく、スキルアップも期待できます。

1 日 時 2018年11月29日・12月6日・13日(水)
16時20分～17時55分 【毎週木曜日・全3回】
2 講 師 千里山キャンパス 実務教育部多目的ルーム
3 講 師 各回の話し手のサポート・コーディネーター 代表理事 高木 由紀代 氏
4 参加条件 本学学生・無料
5 募集人数 30名(先着順)
6 申込み 以下のいずれかの方法でお申込みください。
①窓口申込み 産後期1階ボランティアセンター(月～土曜日の9:00～17:00)
②メール申込み volunteer@kandai.jp宛にて件名「コミュニケーションスキルアップ講座参加希望」を申込み
本文に「学番号等、氏名、携帯電話番号、メールアドレス」を入力し送信してください。

2018年11月 ボランティア活動支援グループ

学生生活で役立つ
コミュニケーションスキル
セミナー

6 ボランティアセンター学生スタッフ活動記録



ボランティアセンター 学生スタッフ活動記録

2018



まもるくん

ボランティアセンター学生スタッフとは…

「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念に活動している団体です。また、学生スタッフは、関大生にボランティアを広めること以外に、ボランティア活動への参加や、学外で行われるボランティアセミナーなどにも積極的に参加しています。

2018年度においては、新たに35名のスタッフが加入し、総勢73名になり、2018年度も充実した活動となりました。

ここからは、そんな彼ら彼女らの活動を感想も含めて紹介します。

定例の活動

学生の中には「ボランティアに関心があるけれど一歩踏み出せない」という学生がおり、学生スタッフはそのような学生を後押しできるような、さまざまな取り組みを行っている。2018年度においては、定例の活動として4つの取り組みを行った。

1 学生スタッフによるボランティア情報紹介

当センターでは、職員がボランティアコーディネートを行うだけでなく、学生スタッフも立場が同じ関大生にボランティア情報紹介を行っている。学生スタッフがボランティア情報紹介をする時間帯を設け、ボランティアに関心のある関大生の想いを聞き、その人に合ったボランティアを見つけるお手伝いをしている。



2 関大クリーン大作戦 ～大学周辺の清掃活動～

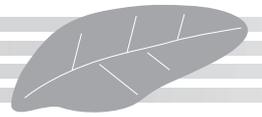
普段通っているキャンパス周辺という身近な場所の清掃を行うことにより、関大生をはじめ、通行する人々が気持ちよく過ごすことができる。ボランティア活動に初めて参加する学生にとっては、授業の空きコマや昼休み時間に気軽に参加できるボランティアであり、身近な場所の清掃を学生スタッフと交流しながら活動することを目的として実施している。



日時	千里山キャンパス	4月15日(日) 10:00～11:30	※雨天中止
		5月13日(日) 10:00～11:30	※雨天中止
		6月21日(木) 12:10～12:50	
		11月24日(土) 12:20～14:20	
		12月2日(日) 10:00～11:30	
高槻ミュージズキャンパス	梅田キャンパス	4月18日(水) 16:30～17:50	
		4月22日(日) 10:00～11:30	

場所 千里山キャンパス周辺（関大裏、関大前通り、名神高速道路沿い）
高槻ミュージズキャンパス周辺（阪急高槻市駅～JR高槻駅周辺）
梅田キャンパス周辺（茶屋町・中崎町周辺）

内容 大学（キャンパス）周辺のゴミ拾い



3 淀川掃除 (ボランティア体験ツアー)

淀川河川敷のゴミを拾うことで、大阪湾へゴミが流れ込むことを防ぎ、たくさんの方が淀川河川敷を気持ちよく利用できるようにする、環境と景観を保護する活動である。本活動は、毎年たくさんの本学学生が参加し、本学学生にとって「気軽にできるボランティア」として親しまれ、2018年11月で累計参加者は約6,900名となった。



日時 4月29日(日) 10:00～12:30
11月11日(日) 10:00～12:30

場所 淀川河川公園 河川敷 **内容** 淀川河川敷のゴミ拾い

参加者数 延べ107名(ボランティアセンター学生スタッフを含む)

累計参加者数 6,897名



学生スタッフの声

毎年淀川掃除は多くの方に参加いただいているが、今年も多くの方と共に活動することができて本当に良かったと思う。1回生の人だけでなく、幅広い層の人に集まっていたことができ、OB・OGの方など学生だけではなく大人の方に参加していただくことでより充実した締まった活動にすることができたと思う。
(経済・3年次生)

4 大和川掃除 (ボランティア体験ツアー)

本学堺キャンパス周辺を流れる大和川河川敷のゴミを拾うことで、たくさんの方が気持ちよく河川敷を利用できると同時に、堺キャンパス周辺の地域貢献活動を目的としている。

本活動は、堺キャンパスに通う学生にとって参加しやすい活動場所であることから、堺エリアで活動を展開しているボランティア準登録団体 WEVO とともに定期的に連携して実施している。



日時 6月24日(日) 10:00～12:00 ※大阪北部地震発生直後であったため中止
9月15日(土) 10:00～12:00 ※雨天中止

場所 大和川公園 河川敷 **内容** 大和川公園河川敷のゴミ拾い



● ● 活動風景 ● ●



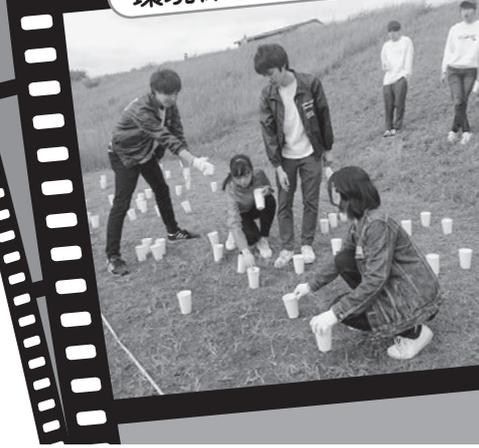
キッズミュージアム



新入生歓迎行事



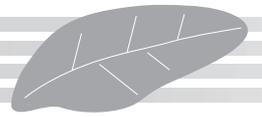
環境保全ボランティア



4月～8月

2018年度ボランティアセンター学生スタッフ実施事業（年間表）

	全体	大学班	河川班	高槻班	吹田班	明日香・梅田班	広報部	ポラリー	その他	
4月	・新入生歓迎行事 2018 (4/2～4/4)	・関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～ (4/15) ※雨天中止	・ボランティア体験ツアー～淀川掃除～ (4/29)	・関大クリーン大作戦 in 高槻 (4/18)		・関大クリーン大作戦 in 梅田 (4/22)	・4月ボランティアカレンダー作成	・Volury (vol.35) 発行 (4/1)	・ボランティアフェスティバル 2018～助け愛の花、咲き誇る～ (4/9～4/10)	
5月		・関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～ (5/13) ※雨天中止		・ボランティア体験ツアー～ホテルを守ろう！新川を灯そう！～環境保全啓発ボランティア(5/19)			・5月ボランティアカレンダー作成			
6月	・ボランティア団体交流会 (6/18) ※地震の影響のため中止	・関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～ (6/21)	・ボランティア体験ツアー～大和川掃除～ (6/24) ※雨天中止		・ボランティア体験ツアー～小学生に防災について楽しく学んでもらおう！学童ふれあいボランティア～ (6/20) ※地震の影響のため中止	・関大×梅田 梅田キャンパスナイト 2018～希望の光～ (6/1)	・6月ボランティアカレンダー作成			
7月	・ボランティアセンター学生スタッフ養成講座 コーディネート講座 (7/4) ・マイバック推進ボランティア (7/6) ※雨天中止 ・天の川 ボランティア【平成 OSAKA 天の川伝説 2018】(7/7) ※雨天中止			・ボランティア体験ツアー 高槻 景観美化ボランティア～美しい花を守ろう！～ (7/8)			・7月・8月ボランティアカレンダー作成	・Volury (vol.36) 発行 (7/1)		
8月	・ボランティア体験ツアー～楽しく学ぶ！ナルホド世界ツアー@キッズミュージアム (8/2～8/3) ・ボランティア体験ツアー～広げよう！未来の関大生へ！～オープンキャンパスボランティア (8/4～8/5)			・ボランティア体験ツアー～きれいな摂津峡を守ろう！摂津峡クリーンアップボランティア～ (8/25) ※雨天中止						
9月	・ボランティア団体交流会 (9/3) ・大学ボランティアセンター 学生スタッフセミナー 2018 (9/4) ・2018年度ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿(夏) (9/9～9/10)		・ボランティア体験ツアー～大和川掃除～ (9/15) ※雨天中止			・ボランティア体験ツアー～飛鳥光の回廊ボランティア～(9/22～9/23)	・9月ボランティアカレンダー作成			
10月	・ボランティア体験ツアー～関大防災 DAY2018 備えよう！炊き出し訓練ボランティア～ (10/25)		・ボランティア体験ツアー～淀川掃除～ (10/22) ※雨天中止		・ボランティア体験ツアー～千里にみんなの光を灯そう！千里キャンドルロード 2018 ボランティア～ (10/27)		・大阪マラソン給水ボランティア事前説明会における学生スタッフによるボランティア紹介 (10/28) ・10月ボランティアカレンダー作成			
11月	・ボランティア体験ツアー 2018年学園祭 近畿地方の魅力を子ども達に！～近畿巡りツアー～ (11/2～11/4) ・ランナーを全力サポート！学生スタッフと一緒に応援しよう！！～第8回大阪マラソン給水ボランティア～ (11/25)	・ボランティア体験ツアー～初めの一歩でつながる命～献血ボランティア (11/13) ・関大クリーン大作戦 with ボランティア団体～千里山キャンパス周辺の清掃～ (11/24)	・ボランティア体験ツアー～淀川掃除～ (11/11)					・11月ボランティアカレンダー作成		
12月	・ボランティア体験ツアー「まちFUNまつり in 関西大学 2018」サイエンスセミナー&子どもの職業体験&ミスノ流忍者学校の補助ボランティア (12/9) ・ボランティアコミュニティ “kizuki” 交流会 2018 (12/15)					・関大クリーン大作戦 in 梅田 (12/2)	・12月ボランティアカレンダー作成	・Volury (vol.37) 発行 (12/14)	・ボランティア体験ツアー 魅力発見!! 吹田クワイ収穫ボランティア (12/16)	
1月	・ボランティアセンター学生スタッフ養成講座 (リーダー研修会) みんなが幸せになる“脳力”の活かし方～前編～ (1/10)						・1・2月ボランティアカレンダー作成			
2月	・ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿(春) (2/25～26)		・第2回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～ (2/17)							
3月	・ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会 (3/18) ・ボランティアセンター学生スタッフ養成講座 (リーダー研修会) みんなが幸せになる“脳力”の活かし方～後編～ (3/25) ・琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来 (3/2)								・第1回全国学生ボランティアフォーラム (3/2～3/3)	



企画・キャンペーン活動

定例の活動とは別に、学内でのボランティア活動の企画や様々な社会問題の啓発活動を行っている。

1 新入生歓迎行事

新入生歓迎行事で広報活動を行い、新入生や在学生に当センターの認知度を高めることで、ボランティアをより身近なものに感じてもらう。また、現在の事業を継続・発展させるべく新たな学生スタッフの勧誘を実施した。



日時 千里山 4月2日(月)～4月4日(水)
10:00～18:30
高槻 4月3日(火) 9:00～17:00

場所 千里山キャンパス 凜風館1階横(悠久の庭前)
高槻キャンパス A棟前

内容 千里山キャンパスではブースを設置し、ボランティアや学生スタッフの活動に興味を持った新入生に対して、ボランティア情報や活動内容の紹介を行った。高槻キャンパスではビラ配布によるボランティアセンターの広報活動を行った。

2 ボランティアフェスティバル2018 ～助け愛の花、咲き誇る～

本イベントは、学生スタッフを含む学内のボランティア団体との合同イベントであり、2018年度で11回目を迎えた。新入生に本学の魅力的なボランティア団体について知ってもらうこと、また、本学のボランティアの多様性や、ボランティアの親しみやすさなどを知ってほしいという学生の思いを込めて実施した。



日時 4月9日(月)～4月10日(金) 11:30～14:30

場所 千里山キャンパス 凜風館1階 学生ラウンジ

参加団体 ボランティアセンター学生スタッフ、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」、児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、文化会「ユネスコ研究部」、学生団体「KUMC」、「WEVO」

内容 各ボランティア団体の紹介ブース設置及び手話サークル「あっぷる」による手話コーラスのステージ発表を実施した。

連携事業

3 ホタルを守ろう!新川を灯そう!環境保全ボランティア (ボランティア体験ツアー)

高槻市内で活動している市民団体「新川姫蛍と花を守る会」の姫蛍の観賞に関するイベントに参加し、ボランティア体験ツアーとして実施した。

大阪府で準絶滅危惧種に指定されている姫蛍が生息できる環境が大阪にもあることを知ってもらい、参加者が環境保全の大切さや必要性について考えるきっかけにしてもらう。また、活動を通して、地域の方との交流の楽しさや、環境問題とボランティアの関係についても考えてもらうことを目的とし実施した。



【連携先】市民団体「新川姫蛍と花を守る会」

日時 5月19日(土) 15:50～21:00

場所 高槻市新川沿い

内容 灯籠のデザイン作成・配置・点火、姫蛍に関する紙芝居の鑑賞、姫蛍に関する啓発ビラの配布、姫蛍の観賞

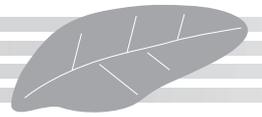
参加者 一般学生21名、学生スタッフ9名



学生ボランティアの声

これまでの学生生活で体験したことのないことに挑戦したいと思ったので参加しました。学年や学部も違う人と交流することができて良かったです。(化学生命工・3年次生)

ボランティア募集情報を見て楽しそうだと思ったのと、なにより自然にふれたいと思ったので参加しました。蛍を見る機会はなかなかないので、きれいな蛍が見れていい経験になりました。(社会・1年次生)



4 関大×梅田 梅田キャンドルナイト2018 ～希望の光～ (ボランティア体験ツアー)

2016年に設立された梅田キャンパスとその付近の地域交流、地域活性を目的に、梅田茶屋町エリアでのキャンドルイベント「1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」に参加した。今回は「希望」をテーマに関西大学が梅田キャンパス周辺地域の幸せの輪を作り、一体となって地域に貢献できることを願った作品を作り上げた。当日は多くの方が訪れ、CHASKA 茶屋町前がキャンドルの希望の光で光輝いた。



日時 6月1日(木) 16:20～21:00

場所 関西大学梅田キャンパス周辺

内容 キャンドルのデザイン作成・配置・点火、ビラ配布
他団体の運営サポート

参加者 一般学生9名、学生スタッフ5名



学生ボランティアの声

今までボランティア活動をしたことがなく、一度経験してみたいと思い参加しました。周りの人たちが「綺麗」と喜んでくれたことにやってよかったなどボランティアのやりがいを感じることができました。
(経済・1年次生)

連携事業

5 平成OSAKA天の川伝説2018 ボランティア ※雨天中止

七夕の夜、人々の願いを託した光の玉「いのり星®」を天の川伝説にゆかりの深い天満橋近くを流れる大川に放流し、川面に「天の川」を創造するイベントに参加した。2017年度は約62,000の方が訪れ、大阪に新たな夏の風物詩として定着した。2014年度から参加し、2017年度で4回目の参加となった。2018年度は西日本豪雨の影響で中止になってしまったが、参加を心待ちにしていた学生も多数いたことから、来年度の参加に向けて準備を進めていきたい。



※2018年度は雨天中止のため、2019年度の写真

【事業主体】 一般社団法人 おしてるなにわ

日時 7月7日(土) 18:00～21:00

場所 大川・天満橋～北浜周辺

内容 案内補助及び「いのり星®」放流補助

連携事業

6 高槻景観美化ボランティア ～美しい花を守ろう!～ (ボランティア体験ツアー)

高槻市で自然と共生する「花と緑のまちづくり」に寄与することを目的として活動する高槻景観園芸クラブの活動に参加した。地域の方との交流を通して、学生ボランティアに環境美化、地域交流の必要性を学んでもらうことを目的とし実施した。また、活動中に地域の方から声をかけていただき、高槻エリアでの当センターの活動の周知にもつながった。



.....
【連携先】NPO 法人 花と緑のまちづくり
高槻景観園芸クラブ

日時 7月8日(日) 9:40～12:00

場所 高槻市 城跡公園

内容 花壇の整備

参加者 一般学生4名、学生スタッフ10名



7 楽しく学ぶ!ナルホド世界ツアー@キッズミュージアム (ボランティア体験ツアー)

本学博物館主催のイベント「キッズミュージアム」に参加した。子どもや保護者との関わりの中で、コミュニケーション能力や臨機応変な対応を身に付けることが期待でき、子どもと接する楽しさを感じてもらうことを目的とし実施した。

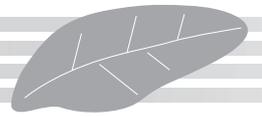


.....
日時 8月2日(木)～8月3日(金)
9:30～16:30

場所 千里山キャンパス 関西大学博物館

内容 世界の遊び(投壺)、絵合わせ、国旗の色塗り

参加者 一般学生7名、学生スタッフ35名



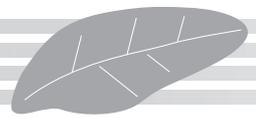
8 広げよう!未来の関大生へ! オープンキャンパスボランティア (ボランティア体験ツアー)

本学ではパンフレットやホームページだけではわからない、大学の魅力を伝える高校生に向けたイベントとしてオープンキャンパスを実施している。本企画は入試広報グループからの依頼で、オープンキャンパスで本学を訪れた方々に対して、本学の学生の一員として大学の魅力を伝えることを目的とし実施した。また、学生スタッフの普段の活動を高校生に知ってもらい、ボランティアの魅力を伝えるブース展示も行なった。当日は多くの来場者を笑顔と挨拶で迎えるなど、オープンキャンパスを盛り上げた。



.....

- 日時** 8月4日(土)～8月5日(日)
10:20～14:15、10:20～16:00
- 場所** 千里山キャンパス
- 内容** 受付場所での不織布バッグの配布、来場者特典配布、
ボランティアセンター学生スタッフブースにおける広報活動
- 参加者** 4日(土) 一般学生8名、学生スタッフ15名
5日(日) 一般学生4名、学生スタッフ15名



● ● 活動風景 ● ●



学園祭



大阪マラソン



千里キャンドルロード



2019年
9月～3月

9 学生スタッフ養成合宿(夏)

今回の合宿では、学生スタッフがより活発な団体へと成長していくため、①「チームワークを高める」、②「ボランティアに対する意識の確認・向上を目指す」という2つを目的とし実施した。合宿を通して、学生スタッフの1人ひとりがボランティアに対する活動意欲を高め、これからの活動をより良いものにしていくことができるよう実施した。

1日目のワーク1では交流を深めるためお互いに自己紹介をする「名前ビンゴ」を行った。ワーク2では「ボランティア劇場～学生スタッフ座～」と題して、「持続可能な開発目標」(SDGs)にある17の国際目標を参考に、身近にある社会問題について考え、大学生である自分たちがどんなボランティアを提案できるか劇で表現した。

2日目のワーク3では「ボランティア盛り上げ隊」と題して、ボランティア自体には興味があるけど参加していない人に向けてボランティアの魅力をどのように伝えていくかを考えた。



日時 9月9日(日)～9月10日(月) **場所** 飛鳥文化研究所・植田記念館

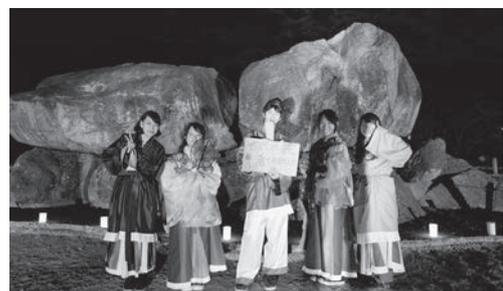
参加者 55名(松村副所長、鈴木次長、小川、村上、三浦、学生スタッフ50名)

連携事業

10 飛鳥光の回廊(ボランティア体験ツアー)

明日香村で毎年行われている、石舞台古墳をはじめ岡寺や飛鳥寺など、明日香村内の代表的な史跡、寺社、施設をライトアップし、20,000本を超えるろうそくの明かりで彩るイベント「飛鳥光の回廊2018」に参加した。

学生ボランティアがキャンドルデザイン会議から参加することで、他の活動では得られない大変さや、それによって得られる達成感を感じてもらう。また、明日香村を散策することによって、歴史や文化的価値について学んでもらった。



【連携先】奈良県明日香村 (関西大学地域連携センター)

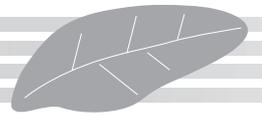
日時 9月22日(土)～9月23日(日)
10:40～20:00

場所 奈良県明日香村 石舞台古墳

内容 22日(土) 灯籠のデザイン作成・配置・点火、
23日(日) ろうそくを入れ替え点火・撤去、明日香村散策

参加者 22日(土) 一般学生5名、
学生スタッフ18名
23日(日) 一般学生8名、
学生スタッフ21名





11 関大防災DAY2018 備えよう! 炊き出し訓練ボランティア (ボランティア体験ツアー)

本学では年に1回防災訓練と合わせて学生の防災意識を高めるイベントを開催しており、今年度も「関大防災 Day2018 ～広がれ! みんなの安全・安心!～」を開催した。近年日本列島は地震や水害などの大規模な災害に見舞われており、非常時における迅速な対応が求められている。本学でも大規模な災害が発生した際には、大学の災害用備蓄品を用いて炊き出しを行う想定になっている。本企画は「関大防災 Day」の一企画として、地域住民の方々と炊き出し訓練を通して、防災への関心を抱かせることを目的とし実施した。



日時 2018年10月25日(木)
10:40～12:50、12:10～12:50

場所 関西大学千里山キャンパス総合図書館前
(関大防災 DAY2018 炊き出しブース内)

内容 ①炊飯に向けた準備、炊飯
②炊きあがったごはんの盛り付け、配膳
③炊き出しに並ぶ列の整理、誘導

参加者 一般学生3名、学生スタッフ21名



学生スタッフの声

学生ボランティアの方だけでなく、普段一緒に活動することが少ないボランティアセンター以外の職員さんと活動しながら交流することができたので楽しく作業することができました。
(社会・2年次生)

12 千里にみんなの光を灯そう! 千里キャンドルロード 2018 ボランティア (ボランティア体験ツアー)

千里ニュータウンの人口と同じ 9 万個のキャンドルに灯をともしイベント「千里キャンドルロード 2018」に参加した。2014 年度から参加し今回で 5 回目の参加となり、ボランティアを通じて地域の方々と交流し、吹田市と豊中市にまたがる千里ニュータウンの地域活性化に貢献した。学生ボランティアにキャンドルのデザイン会議から参加してもらうことで、ボランティアのやりがいや楽しさを感じてもらうことを目的とし実施した。



日時 10月27日(土) 13:00～21:00

場所 大阪府豊中市 千里中央公園・東町

内容 キャンドルの色付け、デザイン作成、設置、点火

参加者 一般学生 13 名、学生スタッフ 28 名



学生ボランティアの声

地域のボランティア活動に参加してみたいと思い参加しました。キャンドルは本当にきれいで、心まで温まりました。

(文・1年次生)



13 2018年学園祭 近畿地方の魅力を子ども達に! ~近畿巡りツアー~ (ボランティア体験ツアー)

本学統一学園祭には、親子連れや子どもが多く来場するため、子どもを対象とした催しを行っている。今年度は、2020年の東京オリンピック開催にあたり、外国人を迎え入れるうえで、まずは自国のこと、とりわけ近畿地方について、遊んで学べるブースを設けた。

当センター学生スタッフは、奈良県の明日香村や滋賀県の琵琶湖でのボランティアといった、関西圏でのボランティア活動を普段から多数実施している。そういった経験を活かし各地方の特色を伝えることで、統一学園祭に来訪される保護者の方や地域の方及び本学学生に、ボランティアの魅力と我々の活動を知ってもらうことに注力して取り組んだ。



日時 11月2日(金) 10:00~16:00
3日(土) 10:00~16:00
4日(日) 10:00~14:30

場所 千里山キャンパス 凜風館1階 学生ラウンジ

参加者 2日(金) 一般学生6名、学生スタッフ42名
3日(土) 一般学生4名、学生スタッフ45名
4日(日) 一般学生2名、学生スタッフ53名

企画内容



・パズル班

ボックスゲームで、近畿7府県の形と位置を答えてもらう。また、近畿絵合わせゲームで特産品の有名なものについて遊びを通して、近畿地方について学んでもらう。



・ご当地キャラクター作り班

子ども達にご当地キャラクターの存在意義を知ってもらい、近畿7府県に係る特産品などを学んでから、オリジナルのご当地キャラクターを作ってもらおう。



・近畿巡りツアー班

子ども達にくじで近畿7府県から1つ引んでもらう。引いた府県のブースで、3つの難易度に分けたクイズを出題して、考えてもらうことで、ツアー形式で近畿地方の特産物や名所などについて知ってもらう。

14 初めの一步でつながる命 献血ボランティア(ボランティア体験ツアー)

現在の日本では輸血用の血液不足の問題がある。しかし、献血について学生の関心が薄いのが現状である。そのため、関大生に向けた献血への啓発を目的とし実施した。

本活動を通し献血についての知識を深めると同時に、今後も開催される献血活動への定期的な参加に繋がることを期待している。



日時 11月13日(火) 12:10 ~ 16:10

場所 千里山キャンパス 悠久の庭前

内容 献血の呼びかけ

参加者 一般学生3名、学生スタッフ12名



15 ランナーを全力サポート!学生スタッフと一緒に応援しよう!! ~第8回 大阪マラソン給水ボランティア~

本学がオフィシャルスポンサーとして参加する「第8回大阪マラソン」に給水ボランティアとして参加した。当日は本学学生400名が給水ボランティアとして携わり、その内の約100名が当センター学生スタッフと一般学生であり、5ブースを担当し活動を行った。2018年度は「みんなでかける虹。」というスローガンのもと、32,000人のランナーをサポートした。給水や応援などを通して、直接ランナーの方と関わるができるので、参加した関大生にも、よりボランティアの楽しさやスポーツの魅力を感じてもらえる活動となった。



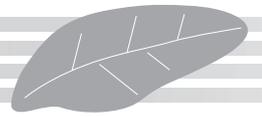
日時 11月25日(日) 7:30 ~ 13:30

場所 大阪マラソン第1給水所
(5km地点・千日前東ブロック)

内容 給水所でのランナーへの給水サービス活動

参加者 一般学生67名、学生スタッフ29名





16 まちFUNまつり in 関西大学2018 運営補助ボランティア (ボランティア体験ツアー)

NPO 法人関西大学カイザーズクラブ及び NPO 法人ママふあん関西との共催イベントに、①サイエンスセミナー補助ボランティア②子どもの職業体験の補助ボランティア③ミズノ流忍者学校の補助ボランティアの3つの運営補助ボランティアとして参加した。学生にとって、日常あまり接することのない子どもやその家族の方との貴重な交流の場となった。



日時 12月9日(日) 10:00～16:00

場所 関西大学 千里山キャンパス全域

内容 サイエンスセミナー・子どもの職業体験・
ミズノ流忍者学校の補助・
その他運営補助ボランティア

参加者 一般学生15名、学生スタッフ28名



連携事業

17 魅力発見!! 吹田クワイ収穫ボランティア (ボランティア体験ツアー)

昨今若者の農業への関心が低下し、関西大学がある吹田市においても特産品である吹田クワイの認知度が低い現状がある。そこで、このボランティアを通して吹田クワイについて深く理解してもらうとともにボランティアの魅力に気づいてもらうことを目的とし実施した。

当日は日常生活では着る機会のない胴長を着衣しての作業に苦戦しながらも、農業の大変さを感じながら活動した。



【連携先】吹田市役所地域経済推進課

日時 12月16日(日) 8:30 ~ 14:30

場所 西農園

内容 吹田クワイの収穫

参加者 一般学生5名、学生スタッフ10名



学生ボランティアの声

収穫作業というものを経験したことがなかったので、一度経験してみたいと思い参加しました。ぬかるみの中での作業で、農業の大変さと楽しさを身をもって知ることができました。
(経済・1年次生)

クワイ収穫という一味違うボランティア活動に興味を引かれたので参加しました。日常生活の中ではなかなか経験することができない農作業を経験できてよかったです。
(法・2年次生)

連携事業

18 琵琶湖ツーリズム! 関大生で考える環境ボランティアの未来

学生スタッフは定期的な「淀川掃除」や、年に一度500人という大規模に取り組む「淀川大掃除」を実施するなど、多くの方にボランティアへ参加してもらう機会を創出することで、ボランティアの魅力を伝えると同時にゴミ問題に対する啓発を行ってきた。そして、2017年度に淀川掃除の体験ツアー化10周年という節目の年に「清掃」だけでなく、環境系のボランティア全般についてその意義と可能性を大学生の目線で考えるため、琵琶湖の環境保全活動に取り組む活動に参加した。2018年度も同じく「認定NPO法人びわこ豊穡の郷」が実施する第12回赤野井湾・小津袋クリーン大作戦に参加し、活動では、参加者が一丸となり、琵琶湖岸のゴミ拾いに取り組んだ。活動後には、びわこ豊穡の郷 理事長 金崎いよ子氏より琵琶湖の環境についてご教授いただき、NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）の学生から、これまで取り組んできた琵琶湖に関わる活動の紹介があった。その後、学生同士で環境ボランティアの未来を考えるワークに取り組んだ。参加者にとって、今回のボランティアが琵琶湖だけではなく、身近な環境問題を考えるきっかけとなることを願っている。



【連携先】 認定 NPO 法人 びわこ豊穡の郷

日時 3月2日（土）8：30～16：35

場所 滋賀県琵琶湖岸一帯及び赤野井自治会館

内容 滋賀県琵琶湖岸でのゴミ拾い、
琵琶湖環境についての講座・ワーク

講師 認定特定非営利活動法人びわこ豊穡の郷
理事長 金崎いよ子氏

参加者 学生スタッフ13名、教職員4名
(松村副所長、堀グループ長、村上、三浦)

連携事業

19 第2回 大和川大掃除 ～力を合わせて大和川に輝きと感動を～

「ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～」が2011年1月21日付で国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定された。また2007年度から始まり、2011年度で5年目を迎えたことから、記念事業としてミズノ株式会社及び体育会本部などの協力を得て、淀川大掃除を2016年度まで実施してきた。

淀川大掃除に続くイベントとして、2017年度からは、本学堺キャンパス付近を流れる大和川において、「大和川大掃除」を実施している。2018年度は昨年より多い500名の関大生が参加する活動となり、ボランティアのやりがいや楽しさを伝えることができた。また、本学との連携協定を締結しているミズノ株式会社と協力して実施したことで、ボランティア活動を通じて双方の発展と充実に寄与できた。



【連携先】ミズノ株式会社

目的 ボランティアに参加したことがある学生はもちろん、ボランティアに参加したことがない学生や、あまり興味を持っていない学生にも「普段関わりがない人と交流できることの楽しさや、大人数でひとつのことを成功させる達成感や一体感」に気付いてもらう機会とする。また、清掃活動を通し大和川のゴミの現状を知ってもらうことで、環境問題への気付きを促し、本学が拠点を構える、大阪をより良い街にすることを目的とし実施した。

日時 2月17日（日）10：00～12：00

場所 大和川河川敷公園

共催 関西大学、ミズノ株式会社

協力団体 関西大学体育会本部、国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所

参加者 総勢約 550 名
(本学学生・併設校生徒約 500 名と関係者 30 名、ミズノ株式会社 社員約 20 名ほか)

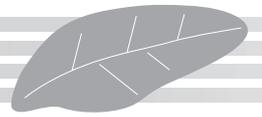
ゴミの回収量 燃えるゴミ 66 袋・燃えないゴミ 77 袋・ペットボトル 19 袋 合計 162 袋



学生ボランティアの声

人のために何かできることはないかと考え、実際には何もできていない自分に対してややもやしている時に、このイベントを知りました。自分も動き出せば人のためになるのではと思い参加しました。河川敷がきれいになり、協力することの大切さを知りました。

(人間健康・1年次生)



20 学生スタッフ養成合宿(春)

春合宿では、学生スタッフがより活発な団体へと成長していくため、①「学生スタッフの意識の向上」、②「学生スタッフのこれからを考える」、この2つを目的とし実施した。

1日目のワーク1では「LINEで情報共有」と題して文章だけの情報共有の難しさを改めて考えた。ワーク2では2019年度の関西大学ボランティアセンター学生スタッフの目標を考え「2019年度マンガラート」を作成した。

2日目のワーク3では「ボランティアセンターCM」と題して、新入生に向けてボランティアセンターの利用を促すCMを実際に動画を撮り作成した。

合宿を通して、学生スタッフの一人ひとりがボランティアに対する活動意欲を高め、これからの活動をより良いものにしていく有意義な合宿となった。



日時 2月25日(月)～2月26日(火)

場所 飛鳥文化研究所・植田記念館

参加者 30名
(岡本所長・松村副所長・鈴木次長・堀グループ長・小川・村上・三浦、学生スタッフ23名)

7 学生スタッフ代表からの一言

ボランティアセンター学生スタッフ代表
2018年度代表 2年次生 安本 悠人

私は、2018年度にボランティアセンター学生スタッフの代表をさせていただきます。

私は大学に入学し、特にこれとってやりたいことがなく、何かの役に立つだろうと思い「何となく」ボランティアに参加しました。それまでの私は、ボランティアとは全く無縁でした。

しかし、実際にボランティアセンターの活動に参加して、ボランティアの魅力を実感しました。

私は、ボランティアの魅力は「交流」と「気付き」だと思います。

ボランティアに参加すれば、参加者同士での交流が生まれます。同じ学生同士の時もあれば、年齢が一回り以上離れた方と交流する時も



あります。世間話や趣味などの話を和気あいあいとしながら活動するので、楽しい時間を過ごすことができます。

ボランティア活動を目的に行ったのが、気付けば他の参加者と親しくなっていることもあります。ボランティアを通じて、人と人の繋がりが生まれます。

ボランティア活動をするだけではなく、交流する楽しさもあるので、まさに一石二鳥です。

また、ボランティア活動を通じて社会問題に気付くことがあります。

例えば、ゴミ拾いをすれば吸い殻がとても多いことに気付きます。そして、なぜ多いのかを考えます。また、ゴミを拾うことはゴミを減らす解決策にはなりません、ゴミを捨てる人を減らすことが一番の解決策になると思います。そして、どうすればゴミを捨てる人がいなくなるかを考えることが、ゴミを減らす解決策に繋がると思います。

ボランティアを通じて参加者同士で交流することや、社会問題に目を向けて考えることは、大学生である私たちにとって有意義な時間になると思います。

ボランティアの魅力は、実際にボランティア活動をしてみたいとわかりません。私自身「何となく」始めたボランティアですが、今では私の大学生活を潤すものになっています。

だからこそ、どのように広報すればボランティアに興味を持ってくれるか、どういった内容なら参加者が楽しめるボランティアになるかを、私たち学生スタッフは日々考えています。

関大生がボランティアに参加することはゴールではなく、ボランティア活動のスタートです。

その一歩目を、私たち学生スタッフがサポートできればいいと思います。

関西大学で有名なものの1つにスポーツがありますが、私たち学生スタッフは、「関西大学といえば『ボランティア』』と言われるぐらい、ボランティアで関西大学を盛り上げていきたいと思っています。

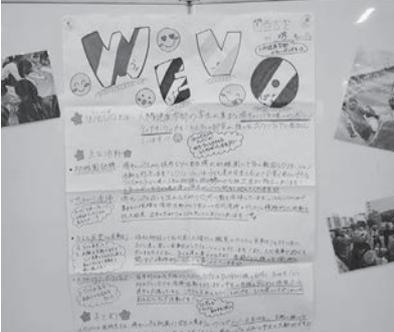
私たち学生スタッフは、ボランティアの魅力を発信するためにこれからも精進してまいります。





8 ボランティア団体への支援

ボランティア団体版



学内ボランティア団体への支援

1 大学としての危機管理 ～ボランティア活動保険への加入の奨励～

ボランティアセンターでは、学内のボランティア団体（届出団体）に対して、活動の安心安全を確保するために「ボランティア活動保険」への加入の奨励をしている。また、大学からボランティア（地域貢献）活動を依頼することもあるため、学生の経済的負担を軽減するために保険加入相当額を助成している。

助成団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」 児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」、「WEVO」
------	---

2 関西大学ボランティアセンター・ボランティア団体とのミーティング

ボランティアセンター学生スタッフが中心となって、ボランティア団体とともに、定期的にミーティングを実施している。このミーティングを行うことにより、ボランティア活動に関する情報共有をはじめ、ボランティアフェスティバルや新入生オリエンテーション期間に協力して勧誘活動を行うなど、学生団体同士の連携が促進されている。また、ボランティア団体の活動を知ってもらうために紹介冊子『COLORS』を作成し、関大生にボランティア団体の活動をPRした。

開催日時	4月6・11・20・27、5月18・25日、6月1・8・15・22日、8月10・31日、9月7・14・21日、10月5・19・26日、11月9・16・30日、12月14・21日、2月5・12日、3月5・12・19・26日（全29回）12：20～12：50、長期休暇中のみ13：00～14：00
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階 会議室1
参加団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」 児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」

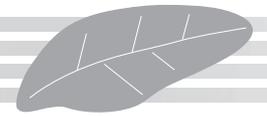
3 ボランティアフェスティバル2018 ～助け愛の花、咲き誇る～

本イベントは、一般学生に大学内のボランティア団体について知ってもらうと共に、各部の新入部員獲得のために2008年から実施し、2018年で11回目となる。8つのボランティア団体が活動写真などで装飾したブースを出展し、各団体が取り組んでいる日々の活動について説明している。

当日は関心のある学生が多数訪れ、新入部員の獲得に繋げることができた。また、団体同士で交流を図ることができ、団体同士の繋がりという面でも非常に有意義な時間を過ごすことができた。



実施日程	4月9日（日）～10日（火） 12：10～16：10
場 所	千里山キャンパス 凜風館1階学生ラウンジ
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」、「WEVO」



4 関大クリーン大作戦with ボランティア団体 ～千里山キャンパス周辺の清掃～

普段利用している千里山キャンパス周辺を複数のボランティア団体と共に清掃することにより、千里山キャンパス周辺の美化はもとより、団体同士の交流を図り団体同士の協力関係を強めることを目的とし実施した。また、清掃活動開始前に食事会を実施し、団体同士の親睦を深めることができた。

実施日時	11月24日(土) 12:30～14:20
場所	千里山キャンパス周辺
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」

5 関西大学ボランティア団体引き継ぎ会

各ボランティア団体の幹部が交代するにあたり、次期幹部に対して学内ボランティア団体が連携・協力して活動しているイベントやミーティングの進め方について引継ぎを行った。またアイスブレイクでは新旧幹部のボランティア団体内の親睦を深め、グループワークにて普段のボランティア活動で困っていることを相談・共有することにより団体同士の交流を深めた。



実施日時	12月7日(金) 18:00～19:30
場所	千里山キャンパス 東体育館多目的ルーム
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」

学外助成案内及び推薦

学外助成金

学外の学生支援組織や社会福祉協議会は、学生のボランティア活動の振興のための助成を行っている。ボランティアセンターでは、これらの団体から寄せられる助成金の案内を学内ボランティア団体に情報提供を行ったうえで推薦し、助成が受けられるよう支援している。今年度は以下のとおり助成金が支給された。

助成団体：一般財団法人学生サポートセンター

推薦団体：手話サークル「あっぷる」

助成額：100,000円

活動内容：聞こえる、聞こえないに関わらず、日々の手話学習や手話劇、手話コーラスなど手話パフォーマンスの発表を通して、サークルメンバーの総合的な手話表現力向上を目指している。また、他大学や地域のサークルとの交流によって実践力を養いつつ、手話の普及も行っている。



助成団体：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

推薦団体：児童文化研究サークル こどもの国「あかとんぼ」

助成額：50,000円

活動内容：毎週水曜日に吹田市内にある学童保育へ訪問し、子どもたちに人形劇や紙芝居、ゲームなどのプログラムを披露したり、外遊びを通して子どもたちと交流を行っている。また、子どもたちを招待して劇を披露する「チルドレンコンサート」といったイベントも実施している。



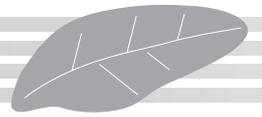
助成団体：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

推薦団体：学生団体「KUMC」

助成額：150,000円

活動内容：「防災啓発」と「ボランティア活動による地域貢献」の2つを軸として高槻ミュージックキャンパスを拠点に活動をしている。千里山キャンパスに通う学生も多数在籍していることから、千里山キャンパスにも支部を置き多岐にわたり活動に取り組んでいる。小学生への防災の出前授業の実施や、防災関連のイベントの参加、防災グッズ作りなどを通して楽しく防災を発信している。





社会貢献を行う学生団体

本学では、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が多数寄せられる。2018年度は14件のボランティア依頼を受けた。

ここでは、団体の活動紹介と活動に関わっている活動者の声を紹介する。

1 手話サークル「あつぷる」

目的

聞こえる聞こえないに関わらず、楽しむことを大切にしながら、日々手話の学習や手話エンターテイメント（手話歌・劇）などの練習を行っており、手話における表現力とは何かということ意識し、その向上に取り組んでいる。学園祭では、手話を交えた歌の発表を行うことで手話の普及、イメージチェンジなどを図っている。また、他の大学との交流や、地域のサークルでの活動で実際に聞こえない方と会話することで実践力を高める活動も行っている。

内容

毎週2回、手話の学習会に行ったり、手話歌や劇などの発表では、団体としての統一感を意識しながら、様々な人に活動の成果を見てもらう機会を設けている。さらに、他団体との交流会では活動施設の手配から、手話通訳の依頼に応えたりと、大学外においても活動の幅を広げている。それらの活動を通して、たくさんの人々との出会いや今までにない経験を積むことができるよう取り組んでいる。

【主な活動】

- ・ 関西大学主催手話交流会
- ・ 学園祭での手話劇
- ・ 手話歌発表
- ・ 声なし合宿
- ・ With Festa（手話歌発表会）



あつぷるん

活動者の声

○夏合宿

2018年度は9月に2泊3日で兵庫県の城崎にて「声なし合宿」を行いました。参加する前は3日間も声を出さずに過ごして意思疎通ができるのかと不安でした。しかし、先輩方が手話でわからない単語はゆっくり表してくれたり、紙に書いてくれたりしっかりとサポートをしてくれました。3日間声なしの生活をして聞こえないとはどういうことを学ぶことができました。手話力もとても上達することができました。また、合宿前よりも手話に対してさらに興味を持つようになりました。（文・2年次生）

○With Festa

WithFestaとは、近畿圏の大学の手話サークルが集まり手話劇・コーラスのパフォーマンスを行う大会です。学園祭におけるパフォーマンスの後に実施される大会であったため、準備期間が短く、劇のセリフや立ち位置、コーラスの手話を覚えるのがとても大変でした。しかし、先輩方が根気強く私たち後輩に指導して下さったおかげで練習も楽しんで取り組むことができました。当日、会場に行って驚いたことは、観客の数や他の大学のパフォーマンス内容です。私たちのサークルにはない独自の魅力がそれぞれにあり、良い刺激になりました。他大学の人も話をすることがあるため、交友関係が広がり、楽しかったです。2018年度は3位でしたが、2019年度は1位を目指して頑張りたいと思います。（文・2年次生）

2 児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

目的

吹田市内の学童訪問や長期休みを利用した小学校への訪問、地域行事などで子どもたちとふれあい、その関わりを通じて私たち自身も成長したいと考えている。

内容

毎週水曜日に吹田市内にある学童保育へ訪問し、子どもたちに人形劇や紙芝居、ゲームなどのプログラムを披露したり、ドッジボールや鬼ごっこなどの遊びを通じて子ども達と交流をしている。

【主な活動】

- ・毎週水曜日の学童訪問
- ・公演（地域行事への参加など）
- ・夏合宿（大阪府以外の小学校へ泊りがけで訪問）
- ・チルドレンコンサート（普段訪問している学童の子どもたちを招待し、演劇を披露する）



ピオンくん

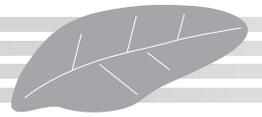
活動者の声

○夏合宿

夏合宿では、普段訪問することのない他県の小学校に行き、1日という長い時間を通して人形劇や紙芝居などのプログラムや子どもたちとの交流を行っています。子どもたちと接する時間が長いため、いつも以上に子どもたちとコミュニケーションを取れるほか、普段の活動ではしない少し凝った工作などで、子どもたちと一緒に楽しむことができます。子どももあかとんぼメンバーも楽しく貴重な体験をすることができるイベントでした。（社会・3年次生）

○チルドレンコンサート

チルドレンコンサートは、普段訪問している学童の子どもたちを招待して劇を披露するイベントです。約3ヶ月間練習をするので、完成度が高く、毎年たくさんの学級さんを楽しんでもらっています。練習の中で大きな声を出す練習や感情をこめて話す練習をするので、普段の訪問で行っている人形劇や紙芝居でも生かすことができます。あかとんぼメンバー全員が関わる行事なので、あかとんぼ内の絆を深めるいい機会となっています。（経済・2年次生）



3 児童文化実践サークル「うぶ」

目的

吹田市内の学童保育学級に通っている小学校 1 年生から 4 年生を対象とし、子どもたちと年齢の近い私たち大学生が関わることで普段接している指導員の方が見ることのない一面を引き出すことができる。そして私たちが子どもの見本となる行動をし、子どもの成長に携わることを目的としている。

内容

毎週水曜日に吹田市内の小学校の学童保育を訪問し、子どもたちと遊んだり、うぶのプログラムであるペープサート（紙の人形劇）、紙芝居、身体を動かすゲームを子どもたちの前で披露している。また、その他にも夏休みの長期休暇を利用して地方の小学校に訪問し、体育館をお借りして公演を行う合宿公演や子ども野外カーニバル、普段訪問している小学校の子どもたちを大学に招待するイベントを行っている。

【主な活動】

- ・ 新生歓迎会
- ・ 学童保育訪問
- ・ 学園祭
- ・ 千里第二子どもカーニバル
- ・ 夏合宿公演
- ・ KUシンフォニーホールでのイベント開催



活動者の声



ぱんぐーちゃん

○イベント

イベント公演は、普段学童保育の活動をさせていただいている学級さんに感謝の気持ちを込めて、関西大学にて行います。今年度は 2 日間で 9 つの学級さんに演劇や人形劇などの公演を行いました。私たちがオリジナルで考えた演劇や人形劇で子どもたちが共感して楽しんでいる姿を見たとき、うれしさと共に達成感を感じたことを覚えています。また、1 年間活動を共にした現 2 回生の成長も感じられた瞬間でもありました。心待ちにしている子どもたちのためにも、今後も続けていきたい活動です。（経済・3 年次生）

○夏合宿

大学の夏季休暇に大阪府外の小学校へ訪問し、人形劇やオリジナルのゲームなどを通じて子どもたちと交流をします。2018 年は徳島県の小学校へ伺い、合宿を行いました。子どもたちの笑顔を見ることができ、学校関係者及び保護者の方々から「子どもたちにとって楽しい思い出になりました」などといったお言葉をいただき、嬉しく思いました。準備や練習などを綿密に行うため、私たち自身も成長することができる、有意義な活動であると感じました。（法・3 年次生）

4 ボランティアサークル「チャレンジャー」

目的

ボランティアサークル「チャレンジャー」は視覚特別支援学校や障害者福祉施設のイベントにボランティアとして参加することによる社会貢献を目的としている。また、普段接する機会の少ない障がいのある方との関わりを通して障がいに対する理解を深め、私たち自身も成長することを目指している。

内容

視覚特別支援学校での行事における手引きやサポート、障害者福祉施設「ゆうゆう会」での行事における車いすでの移動のお手伝いや食事介助、トイレ介助などを行うことが主な活動内容である。また、子どもとふれあうボランティアや日本テレビ「24時間テレビ」の募金活動も行っている。

【主な活動】

- ・ 視覚特別支援学校での活動
 - ・ 日本テレビ「24時間テレビ」募金活動
 - ・ 吹田こどもまつり
 - ・ あすわ〜く1泊旅行
 - ・ 障害者福祉施設「ゆうゆう会」での活動
 - ・ 「まちつく」への参加
- ※「まちつく」とは、ダンボールを使って“まち”をつくる夏休みの小学生向けワークショップです。



活動者の声

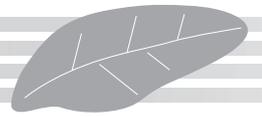
○あすわ〜く1泊旅行

社会福祉法人ひがしよどがわ福祉会 あすわ〜くの人たちと会うことは年に数回しかありませんが、障がいのある方、彼らと普段接している施設の職員さんたちと、同じ部屋で1泊することで、ほかの活動で自分が昼間に取り組んでいるだけではない介助を知ることができたことが、1年の活動の中で、私にとって印象深いことです。その後は他の活動でも、見えているところ以外でどんなことに利用者さんたちが困っているのか、想像しながら行動できるようになりました。(文・2年次生)

○ゆうゆう会

ゆうゆう会では月に1度、障害者施設に行き、そこで活動をしたり、ときには障がいのある方と一緒に外へ出かけもします。例えば、“ポッチャ”とよばれる障がい者スポーツを行うのですが、白熱した戦いとなり、とても楽しいです。その他、空港に夜景を見に行ったり、海遊館にも行きました。

私は介助経験がありませんでしたが、支障はなく活動に参加でき障がいのある方々と楽しい時間を過ごせるとともに彼らの喜ぶ姿を見て元気をもらっています。毎回の活動において、たくさんの方のことを学ばせてもらっています。(法・2年次生)



5 文化会「ユネスコ研究部」

目的

ユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」という理念に則り、主に子どもたちとの交流を中心としたボランティア活動を行なっている。子どもたちには、普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて、異世代交流の楽しさや集団行動の大切さを学んでもらうことが目的である。また、子どもたちとの交流により、部員の行動力や責任感を培い、新たな成長に繋げていくことも目的の1つである。

内容

吹田市在住の子どもたちと月に1度交流する「スクール」を中心に活動している。「スクール」では、運動や料理、工作などをしたり、遠足やキャンプなどの活動も行なっている。その他には、吹田市を中心に、地域イベントの運営補助や企画、清掃活動などのボランティア活動にも取り組んでいる。

【主な活動】

- ・スクール
- ・スクール遠足
- ・スクールキャンプ
- ・文化フェスティバル



ゆねもん

活動者の声

○スクール(活動全体を通して)

「スクール」では子どもたちと様々な活動を行うことができ、普段なかなか経験できない充実した時間を過ごすことができます。また、子どもたちとの交流を通して、活動自体の楽しさや充実感だけではなく、自らの成長も感じることができると思います。子どもたちに楽しんでもらえるように、部員とさまざまな企画を考えることも楽しみの1つです。
(法・3年次生)

○スクールキャンプ

「スクール」で一緒に活動している子どもたちと、普段とは違った活動をすることができ、多様な学びや経験が得られる貴重な活動だと思います。自然にふれたり、さまざまなアクティビティを行なったりする中で、いつもとは少し違った子どもたちの顔を見ることができます。また、宿泊を通して、部員同士の仲をより深めることもできると感じています。
(法・2年次生)

6 学生団体「KUMC」

目的

私たち KUMC は、地域の住民、子どもを中心として地域に向けて防災に関する情報を発信し、地域全体の防災意識の向上に貢献することを目的として、地域密着型の防災啓発活動を展開している。そして、実際に災害が起こったときに、自分たちが伝えた内容が活かされることを目標にしている。また、地域のお祭りやイベントなどにおいて企画運営や警備ボランティアなどに参加することで、地域を盛り上げるお手伝いをするといった地域貢献活動にも取り組んでいる。

内容

地域の小学校における防災授業や図書館での防災絵本の読み聞かせなど、様々なイベントに参加し、防災知識を楽しく学んでもらえるよう取り組んでいる。活動の中で、災害時に子どもたちが自分自身を守ることができるように、自作のパワーポイントやゲームを使うなど、より多くの知識をわかりやすく伝える工夫をしている。

地域貢献活動では、高槻市や茨木市、吹田市エリアを中心に様々なボランティアイベントに積極的に参加している。

また、春と夏には自分たちの学習の一環も兼ねて東北を訪れ、現地の語り部さんのお話を聞いたり、津波の到達地点に桜の木を植えて後世に伝える「桜ライン3.11」という活動にも参加している。

- 【主な活動】
- ・ 小学校での防災出前授業
 - ・ 防災ゲームや防災グッズの作成
 - ・ 図書館での防災絵本の読み聞かせ
 - ・ 地域のイベントでのボランティア



くまっく

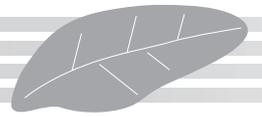
活動者の声

○ミュージックャンパス祭

高槻ミュージックャンパスで開催されるミュージックャンパス祭は、KUMCの活動の中でもかなり大きなイベントです。防災関連の様々なプログラムが行われるお祭りですが、私たちは、主に子どもたちと保護者の方を対象に、楽しみながら防災に興味を持ってもらうために、防災に関するゲームやグッズづくりなどのブースを出しています。地域の方にKUMCの活動を知っていただける良い機会にもなっています。イベントではまさにみんなで“防災を学びあう”イベントになっています。(社会安全・3年次生)

○東北ツアー

KUMCでは年に2回、春と夏に東北へ行く機会があります。春は「桜ライン3.11」という東日本大震災の際の津波の到達地点に桜を植樹し、後世に伝える活動に参加しています。夏は、震災遺構を見たり、語り部さんのお話を聞いたりしています。2019年は現地の大学生との交流も行います。また、どちらの訪問においても、東北の魅力を知ること大切な目的の一つにしているので、きれいな景色を見たり、新鮮でおいしい海の幸を味わったりしています。そして、現地で感じたことや見たもの、学んだことを活動に還元し、生かしています。(社会安全・3年次生)



7 「WEVO」

目的

ボランティアサークル「WEVO」は、「自分たちにできるボランティアを楽しく行う」ことが活動の目的である。また、活動する際には①地域とのつながりを大切にする②事業所と連絡を取り合い調整や企画を行うことにより良い関係を築く③ボランティア先での交流や経験を通し様々なことを学ぶ、という3点を意識して活動している。

内容

主な活動は毎月第1水曜日と土曜日の子ども食堂への参加や大和川清掃である。子ども食堂を開催している施設、大和川ともに堺キャンパス付近に位置しており、地域に根差した活動となっている。子ども食堂でのボランティアは、遊びや勉強の見守りなどを中心に活動し、子どもたちと同じ目線での活動を行えるよう意識している。

【主な活動】

- ・子ども食堂（ハート食堂とおにぎり食堂）
- ・大和川清掃
- ・大阪マラソン清掃ボランティア



オタノシミン

活動者の声

○子ども食堂

活動させていただいている子ども食堂では、共に食事をするほか、クラフト体験などを一緒に楽しんでいます。絵葉書体験では、お花の描き方を先生からご指導いただいたのですが、子どもたちは黒い点を花びらに付け加え、上手に生き物に変えるといったように自由な発想や機転を利かせた行動に気づかされることも多く、毎回新鮮な気持ちで参加しています。月1,2回の活動頻度ではありますが、子どもたちと関わり成長を見守るなかで、新たな気付きを得て自身の成長も感じることができます。（人間健康・3年次生）

○大阪マラソン清掃ボランティア

大阪マラソン清掃ボランティアでは、ランナーの方々が給水したあとの紙コップゴミなどの回収を行いました。走り抜けていくランナーの皆さんにエールを送ると、爽やかに「応援ありがとう」と返して下さったり、ランナーの方自ら声をかけて下さったりしました。大阪マラソンでは、42.195kmを少しでも快適に走ってもらうために、様々な方々がランナーの皆さんをサポートしています。私も末端ながら一員として加わることができて良かったです。（人間健康・2年次生）

各団体の代表者の声

手話サークル「あっぷる」

代表：田中 秀弦

2018年度は部員のほとんどが手話初心者でしたが、他大学との合同勉強会を通じて大学間交流に積極的に参加し、手話が上達するよう頑張りました。また、日頃の活動はもちろん、夏合宿やクリスマス会など季節のイベントも積極的に行い『手話サークル「あっぷる」=手話の勉強』ではなく、楽しく日常会話を通じて手話を使えるようになる活動を心がけました。他にも、聴覚障がいがある子どもの保育ボランティアにも取り組んでいます。このようなたくさんの行事を通じてサークルメンバーと仲良くなり、1年間で“手話力”をあげることができ、とても充実したサークル生活を送ることができました。2019年度に向けて手話初心者でも大学から始めやすい環境を作り、1人でも多くの方に手話に興味をもってもらえるような活動をしていきたいと思っています。また、保育ボランティアだけでなく手話通訳などのボランティアも行えるようよりいっそう手話の勉強に励みたいと思っています。



児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

代表：上田 恵理

この1年間も特に変わりなく、毎週水曜日の学童訪問に加えて、週末のイベントへの参加など、充実した活動を行っています。新入生も十分な人数が加わりました。しかし学童訪問では、子どもたちの人数が増える一方で、授業の都合で参加出来るメンバーが少なく、一部のメンバーに負担が偏る状況が続いています。そして人形劇などのプログラムにおいては、内容が幼く、高学年には向かないという課題も未だにあります。先月学童保育の指導員の方にお話を聞く機会があり、アドバイスを求めたのですが、指導員の方々もまだ高学年への接し方は模索している最中と伺いました。訪問を重ねる中で、私達もより子どもたちへの理解を深め、指導員の方々とも連携しながら活動できる1年になればと思っています。これからも、子どもたちに一層楽しんでもらえるよう探求を続け、部員一同取り組んで参ります。

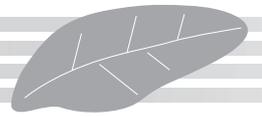


児童文化実践サークル「うぶ」

代表：三好 祐季

私達の活動のなかで最も有意義なことは子ども達の笑顔を見られること、成長の瞬間を近くで感じられることだと考えています。私たちは毎年吹田市内の学童保育学級を訪れていますが、訪れるたびに驚きと発見の連続です。一番年下だった子が先輩になり、年下の子たちに優しく色々なことを教えていたり、けん玉が上達したことを笑顔で教えてくれたり、乗れなかった一輪車に乗れるようになっていたり、一年見ていない間に多くのことを学んでいる様子がうかがえて、毎回成長を感じています。私たちもそんな子どもたちに負けないように向上心を持ち、子どもたちが楽しむ顔が見られるように日々成長を続けるサークルでありたいと思っています。また、学童保育学級への訪問、イベント行事などの活動を支えてくださる方々へ日々の感謝を忘れず、今後も精一杯努力を続けていきます。





ボランティアサークル「チャレンジャー」

代表：小林 夏実

私はチャレンジャーに入ってちょうど1年が経ち、「はじめの頃はわからなかった『手引き』について少しずつわかってきた」と言いたいところですが、活動にはいくつか種類があり、障がいのある方といってもそれぞれみなさん介助の仕方も様々であるため、2回生になった今でもまだ、わからないことが多々あります。そんなとき、一緒に活動するチャレンジャーの先輩方や、活動の中で出会う利用者さんの保護者や、プロのガイドヘルパーさんたちから、どうしたらいいか教えてもらっています。



自分が1年次生のときは、わからないことがあってもまず活動に参加していました。手探りながらも目の前の障がいのある方や保護者さんたちを楽しんでもらうことができていると思いますし、自分も楽しめていました。今年からは、自分が先輩方に教えてもらったことを1年次生に伝え、その次、その次…と活動がずっと続いていったらいいなと思います。

文化会「ユネスコ研究部」

代表：関伽井 菜緒

私たちの活動は、子どもたちと関わる機会が多いため、特に部員の協力が欠かせないです。2018年度も多くの新入生が入部してくれたため、子ども一人ひとりに対する部員の細やかな気配りが可能になったと感じています。また、部員が増えたことにより、活動の幅が広がり、様々な企画をすることができたことも、2018年度における大きな変化であったと思います。部員それぞれが自主的に行動し、子どもたちと積極的に接したりする姿が多く見られたことは大変嬉しく思います。また、どの活動においても部員の参加率が高く、活動を円滑に行うことができたので、部員の協力にはとても感謝しています。2019年度においても、部員一人一人が自ら考えて行動し、主体的に参加できるように、企画の段階から多くの部員が関わっていけるように配慮し、部員全員が子どもたちと楽しんで活動できるように努力していきたいと思っています。



学生団体「KUMC」

代表：木村 太一

2018年度は、挑戦と活動の幅の広がりを実感する1年になったと考えます。2017年度に部員数が飛躍的に増加したことに伴いKUMCとしてできることが増えた。実際に2017年度と比較して活動への参加者は多いもので約2倍にまで増加しました。



また、高槻市の教育委員会と連携を取ることで、活動の幅を広げることに成功し、放課後子ども教室における防災の授業の活動は2017年度と比較して約3倍に増加しました。さらに、幼稚園児とその保護者を対象として防災の授業を行うなど、対象年齢の幅も広がっています。

このように2018年度は部員数の増加と新しい事への挑戦により、求められることと取り組めることの増加を実感する1年となりました。そして、これに伴って部員のモチベーションも上げることができたと考えているので、2019年度以降も「防災」と「地域貢献」という軸を基に新しい事への挑戦を続けていきたいと考えます。

「WEVO」

代表：田中 桂花

2018年度は子ども食堂での活動に注力し、継続的に参加させていただきました。大学生にもなると、子どもや近隣の方々と交流する機会が失われがちですが、子ども食堂を通して世代間コミュニケーションを楽しみつつ、地域の一員としての自覚を育むことができました。また、活動終了後などに開催場所の職員の方たちと、活動の振り返りや次回に向けてのミーティングを行うことで、ただ単に活動に参加するだけでなく、企画運営にも関心を向けることができ、より中身の濃い活動を行えた1年になったのではないかと感じています。2019年度は、活動基盤が安定していることや、人間健康学部の福祉専攻の学生だけでなく、スポーツ専攻の入部希望者が増加傾向にあることを踏まえて、従来の活動だけではなく、他の準登録団体やゼミとの交流を生かした多様な活動を行い、部員が気軽に活動に参加できるようにしたいと考えています。



2 クリアファイル

2008年度からボランティアセンターと学生スタッフの広報手段として作成しており、受け取った学生が日常的に使用してくれることで認知度向上に繋がっている。

2018年度では、2,000部を作成し、クリアファイルの一部を透明にして中身が見えるデザインにした。

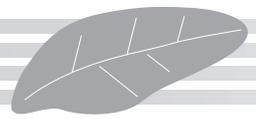
今回は「繋がり」をコンセプトにデザインした。「ボランティア活動を通して、日常生活ではあまり関わる機会のない人とのつながりを持つ大切さを知ってほしい」という思いを込めて作成している。

クリアファイルの中央の円には2人の心から伸びた手が繋がれたイラストで、ボランティア活動を通して人と人の「心のつながり」があることを表現している。また、中央の円を透明にすることで、クリアファイルを受け取った人の「ボランティアの色」に染めてほしいという思いが込められている。中央の円の周りにはボランティア活動の風景を描き、一人一人の個性の違いを表現するため人物の色を変えている。色のちがう人たちが協力して同じボランティアをすることで心がつながる様子を表現した。

ボランティア活動の暖かい雰囲気を表現するために中央の円からオレンジ色や黄色などの暖色系の色が広がっていき、「心のつながり」の象徴として毛糸で Volunteer の文字を表現することで、クリアファイルを受け取った人にボランティア活動を通して「心のつながり」を感じてほしいというメッセージを込めている。



2018年度版 (2,000部)



3 ボランティアセンターリーフレットの新生全員配付

本紙は、ボランティアセンターの認知度アップとボランティアセンター学生スタッフを含む学生のボランティア団体の新生獲得を目的に作成し、2010年度より新生全員に配付している。

作成以降、センター来室者が増加した。また、学内のボランティア団体においては新入部員の増加に繋がった。

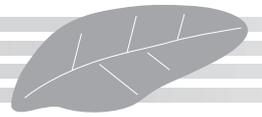


2018年度版（12,500部）

4 機関誌「Volury（ボラリー）」の発行

職員と学生スタッフが編集委員となって作成した。職員は、アドバイスと校正を中心とし、学生スタッフの自主性を引き出すように支援した。

- ・ vol.35（3月20日発行）、vol.36（6月29日発行）、vol.37（12月14日発行）
- ・ vol.35は12,500部、vol.36・37は2,000部発行



10 学 生 の 声

ボランティア体験報告

ボランティアセンターは、活動参加者がボランティア体験について振り返る機会を作るために、体験報告を寄せてもらうよう呼びかけをしている。また、体験報告をホームページなどに掲載し、自由に閲覧できるようにすることにより、具体的なイメージが湧きやすく、同じ関大生が参加したボランティアであれば、安心して参加できるという学生も少なくないようである。

ここでは、2018年度に学生から寄せられた体験報告を一部紹介する。

分野	環境
内容	大学周辺の清掃活動（関大クリーン大作戦 in 高槻）
日程	4月18日（水）
感想	<p>もっと高槻のことが知りたいと思ったので参加しました。同じ目的を持った学生や地域の人と一緒に活動をして、たくさん交流できたので嬉しかったです。 （法・3年次生）</p> <p>ボランティアに興味があったので参加しました。新しい出会いがあり、自分の手で街をきれいにできたという達成感も感じることができました。 （商・2年次生）</p>



分野	環境
内容	大学周辺の清掃活動（関大クリーン大作戦 in 梅田）
日程	4月22日（日）
感想	<p>関大の一員として、何か活動を行いたかったので参加しました。普段は関わるきっかけがなかった先輩や違う学部の友達と、一緒に活動することによってゆっくりと話すことができました。 （商・1年次生）</p> <p>ボランティアセンターでの説明を聞いて、自分でも何かやってみたいという気持ちになったので参加しました。自分たちが道のゴミを拾っていき、だんだんとゴミがなくなっていくことがすごく気持ち良かったです。 （政策創造・1年次生）</p>



分野	環境
内容	河川敷の清掃活動（淀川掃除）
日程	4月29日（日）
感想	<p>大学生生活を充実させたいと思ったので、その一環としてボランティア活動に参加しました。淀川をきれいにすることができ、充実感を味わうことができました。 （文・1年次生）</p> <p>社会的な奉仕活動に一度参加してみたいと思い参加しました。参加者の人数が多かったので、たくさんの人と活動を通して交流することができました。最初のアイスブレイクがあったので親しみやすかったです。 （商・4年次生以上）</p>

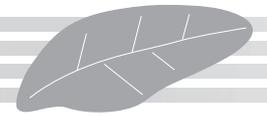


分野	イベント
内容	キャンドルの準備、設置、点火、片づけ（関大×梅田キャンドルナイト2018）
日程	6月1日（金）
感想	<p>友達と一緒にキャンドルを飾りつけたいと思ったのが参加したきっかけです。素敵な雰囲気自分たちも幸せな気持ちになることができました。一緒に活動した先輩方も親切だったので、安心して活動することができました。（文・1年次生）</p> 

分野	環境
内容	景観美化（高槻景観ボランティア ～美しい花を守ろう！～）
日程	7月8日（日）
感想	<p>前回ボランティア活動に参加して、充実感を得ることができたのでもう一度参加したいと思い参加しました。地域の住民の方とふれあうことができたのが良かったです。（政策創造・1年次生）</p> <p>将来教職に就くことを志望しているので、1度ボランティアに参加したいと思い参加しました。同じ目的を持った仲間と活動することで、暑い中たくさん動いても楽しいと思うことができました。（商・2年次生）</p> 

分野	イベント
内容	キャンドルの準備、設置、点火、片づけ（千里キャンドルロード2018）
日程	10月27日（土）
感想	<p>ボランティア活動に、1度参加してみたい！と思い参加しました。一緒に活動している先輩方が的確に指示をしてくださったので、安心して楽しく活動することができました。（経済・1年次生）</p> 

分野	環境
内容	大学周辺の清掃活動（関大クリーン大作戦 in 梅田）
日程	12月2日（日）
感想	<p>友人からの熱烈的な誘いで、ボランティア活動の幅を広げたいという思いもあり、参加しました。学生スタッフの方々が主体的に、運営や声掛けをしてくださったおかげで、楽しく活動を行うことができました。（法・2年次生）</p> <p>友人に紹介してもらったのと、大学からの「お知らせ」を見て興味を持ち参加しました。大人数で同じボランティア活動をすることで、一体感を感じることができました。（文・1年次生）</p> 



分野	イベント
内容	子どもの職業体験ブース補助、サイエンスセミナー実施補助、ミズノ流忍者学校実施補助（まちFUNまつり in 関西大学2018）
日程	12月9日（日）
感想	<p>夏に行われた「キッズミュージアム@関西大学博物館」にも参加させていただいたのですが、子どもとふれあう活動が好きなので今回も参加しました。活動は自由に動かさせていただくことができ、子どもたちともふれあうことができ楽しかったです。（経済・4年次生）</p> <p>自分の興味のある科学の知識を活かすことができると思ったので参加しました。普段ボランティア活動に参加することがなかなかできないので、いい機会になったのと同時に子どもが喜んでくれて楽しかったです。（理工学研究科・M2年次生）</p>



分野	農業
内容	吹田くわいの収穫補助（魅力発見!!吹田クワイ収穫ボランティア）
日程	12月16日（日）
感想	<p>収穫作業というものを経験したことがなかったので、1度経験してみたいと思い参加しました。ぬかるみの中の作業で、農業の大変さと楽しさについて身をもって知ることができました。（経済・1年次生）</p> <p>くわい収穫という一味違うボランティア活動に興味を引かれたので参加しました。日常生活の中ではなかなか経験することができない農業作業を経験できてよかったです。（法・2年次生）</p>



分野	環境
内容	河川敷の清掃活動（第2回 大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～）
日程	2月17日（日）
感想	<p>大和川の清掃をクラブの部員全員で行うことで、部として主体性を持って行動ができるようになると思い参加しました。部員同士だけでなく、普段なかなか接する機会がない他クラブの部員とも交流することができてよかったです。（人間健康・3年次生）</p> <p>大規模なボランティアに参加したことがなかったので、1度参加してみたいと思い参加しました。大人数での掃除ということで、広範囲にわたって綺麗にすることができ、また、ボランティアを通してたくさんの人と交流をすることができました。（商・1年次生）</p>



11 資 料

ボランティアセンター内規

制定 平成17年4月28日

(趣 旨)

第1条 この内規は、関西大学学生センター規程（以下「規程」という。）第12条第2項の規定に基づき設置するボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 センターは、本学学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資することを目的とする。

(事 業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) ボランティアの相談に関すること。
- (2) ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
- (3) ボランティア講習会に関すること。
- (4) 関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
- (5) その他ボランティアに関すること。

(登 録)

第4条 センターの利用を希望する学生は登録するものとする。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

(ボランティア連絡協議会)

第6条 センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第12条第2項の規定によりボランティア連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、次の者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 学生センター副所長 1名
- (3) 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
- (4) 学生サービス事務局長
- (5) 学生サービス事務局次長
- (6) ボランティア活動支援グループ長
- (7) 事務職員（ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパスグループ・高槻ミューズキャンパスグループ・堺キャンパス事務室）若干名

3 協議会の議長は、センター長とし、副議長は、議長の指名による。

4 第2項第1号、第2号及び第4号から第6号までに規定する委員の任期は役職在任中とする。

5 第2項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

6 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

7 協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(学生スタッフ)

第7条 センターに、学生スタッフを置く。

2 学生スタッフは、第3条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。

第8条 この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

(事 務)

第9条 ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この内規（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

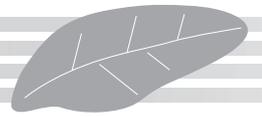
附 則

この内規（改正）は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1 この内規（改正）は、平成26年4月1日から施行する。

2 この内規（改正）施行の際に第6条第2項第3号により選出される委員の任期は、同条第5項の規定にかかわらず平成26年9月30日までとする。



関西大学ボランティアセンターにおけるボランティア団体の紹介に関する方針

2007年1月11日

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

- 1 公益性・公共性が高い活動。
- 2 営利を目的としない活動。
- 3 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動。
- 4 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動。

(1) ボランティア募集の受付

- ①初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ（A4サイズに限る）」を持参のうえ、来室をお願いします。（教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。）
- ②来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
- ③ボランティア募集团体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
- ④学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
- ⑤個人からのボランティア募集は受付いたしません。（地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。）

(2) ボランティア団体・活動の選定基準（以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。）

- ①法令に違反するもの。
- ②公序良俗に反するもの。
- ③人体に有害なもの、危険が伴うもの。
- ④政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの。
- ⑤関西大学ボランティア連絡協議会が不適當であると判断するもの。

(3) ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認します。

- ①ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
- ②ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
- ③ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
- ④学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認し、未加入の場合は活動させないこととする。
- ⑤次の内容を含む活動については紹介できないこととする。
 - (ア) 22時以降6時までの深夜早朝活動
 - (イ) 精神的、肉体的苦痛が心配されるもの
 - (ウ) 水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの
 - (エ) 車の運転
 - (オ) 本来、有資格者によってなされるべき活動

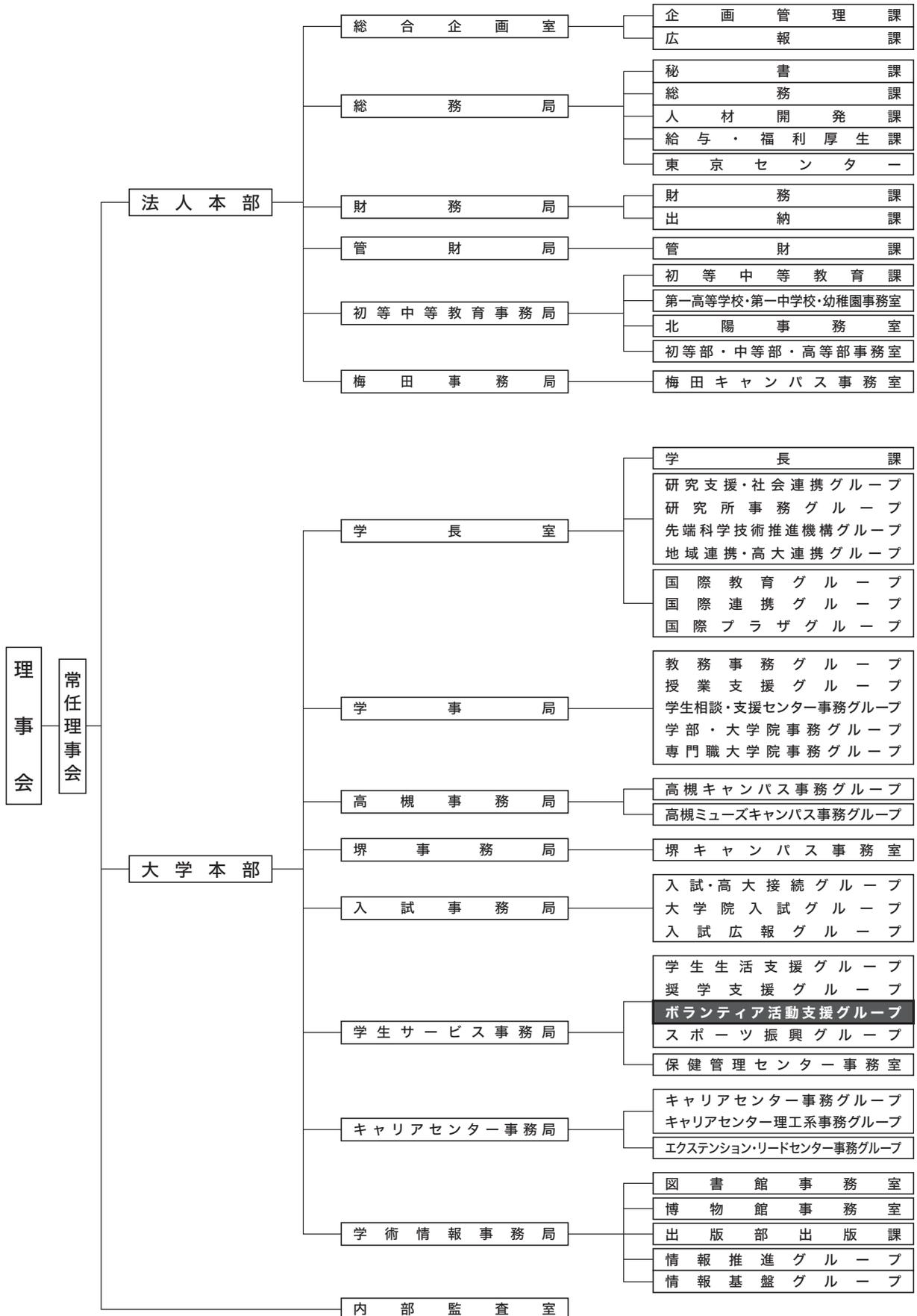
(4) 免責事項

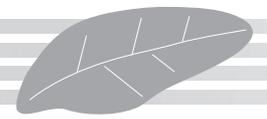
ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

以上

2018年度 事務組織図

(2018年4月1日現在)





2018年度 関西大学ボランティア連絡協議会委員

所 属 ・ 資 格	氏 名	任 期	備 考
ボランティアセンター長 (政策創造学部・教授)	岡 本 哲 和	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (化学生命工学部・教授)	松 村 吉 信	役職任期中	副委員長
社会学部・教授	加 納 恵 子	2016.10.1 ～2018.9.30	
人間健康学部・准教授	灘 英 世	2016.10.1 ～2018.9.30	
政策創造学部・教授	橋 口 勝 利	2016.10.1 ～2020.9.30	
人間健康学部・准教授	福 田 公 教	2018.10.1 ～2020.9.30	
システム理工学部・准教授	倉 田 純 一	2018.10.1 ～2020.9.30	
学生サービス事務局長	村 上 隆 志	役職任期中	
学生サービス事務局次長	鈴 木 啓 祐	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ長	堀 律 子	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ	小 川 隆 行		
ボランティア活動支援グループ	村 上 翔 也		
高槻キャンパス事務グループ	蒲 田 梨 恵 子 吉 田 愛		
高槻ミュージズキャンパス事務グループ	島 田 純 佐 藤 喜 大 樋 口 翔 太		
堺キャンパス事務室	市 川 眞 理 子 坂 田 優 志		

2018年度ボランティア活動支援グループスタッフ

ボランティア活動支援グループ長	堀 律 子
ボランティア活動支援グループ	小 川 隆 行
	村 上 翔 也
	山 本 未 希
	三 浦 茜

❖❖❖❖ 12 ボランティアセンター紹介記事 ❖❖❖❖

ふくしおおさか 12月号 (2018年12月1日発行)



今回は、ボランティアファンドを活用している関西大学の団体を取りあげ、ボランティアにかける思いを紹介します。

※ボランティアファンドとは
ボランティアの普及と社会的課題の解決を目的に、2001年に設立。以来、善意によっていただいた寄付をボランティア・市民活動に関わる取り組みへの支援という形で広く地域社会に還元しています。

無邪気な笑顔に惹かれる

児童文化研究サークル「あかとんぼ」は、小学校の学童保育や保育園を訪問し、人形劇や紙芝居の披露を通じて子どもたちを笑顔にしています。

オリジナルの物語は20を数え、場所や年齢に応じて使い分けています。さらに、毎年吹田市内の幼児や小学生を招待し、コンサートホールを借りて、自らが出演する劇を披露しています。前代表を務めた七井巧さんは、「子どもが好きでこの活動を始めた。子どもたちの笑顔を



上田せん(左)、七井せん(右)

想像しながら物語をアレンジしたり衣装を作っている。実際に劇を見た子どもたちの笑顔を見ると、最高の気持ちになることやりがいを語ります。

「好き」をボランティアに

代表を受け継いだ上田恵理さんは「子どもが私の名前を呼んでくれたり、保護者や先生から『年齢の近い大学生だからこそ、子どもが安心して遊べる。とても助かる』といわれると、もっとがんばろうと思う」と声を弾ませました。

ボランティア活動は大学に入ってから始めたという上田、子どもや演劇に関わりたてた出会ったサークルです。今ではあかとんぼの活動でスケジュールがいっぱいだが、夢中になって子どもたちと関わる学生たちの姿は、まぶしく輝いています。

設立：1975年
部員：44人(内、地域
の子どもたちや保護者など
の参加者も含まれる)

新聞紙がコップに大変身

学生団体KUMCは、日頃から防災・減災について学び、社会安全学部生を中心に設立された。小学校に出向いて防災の授業を行うほか、地域の防災イベントなどにも協力しています。

授業は地震や水害への備え、避難のポイントを伝えるだけでなく、ワークショップも交えた災害時に役立つ実践的な内容になっています。新聞紙やビニール袋を材料に、スリッパやコップ、かっぱなど身近な生活用品を工夫次第で簡単に作れることを伝えています。また、防災クイズやクイズを使い、楽しく学べるアイデアを織り交ぜた授業は、小学生に大変好評です。

出合いを大切に

思いやりを培う

「災害は非常事態、自分で自分の身を守る事が大事だけど、それだけだと心がもたない。普段から人とつながりを大切にしてほしい。それが災害のときにきつと支えになるから」と、代表の川口優花さんは子どもたちに伝えていきます。

「子どもたちとの出合い、大好きな仲間との出合い、ボランティアで過ごす時間が充実している」と心の底から思う。KUMCの活動を通して視野がぐんと広がった、ボランティアは自分自身を成長させ、背中を押してくれる



「フリップや段ボールもあれば便利」と川口さん(右から3人目)

きた仲間との出合い、ボランティアで過ごす時間が充実している」と心の底から思う。KUMCの活動を通して視野がぐんと広がった、ボランティアは自分自身を成長させ、背中を押してくれる

たと振り返る川口さん。まっすぐに相手を思いやり自分の言葉で話す学生の目は、これまで一つ一つの出合いを大切に生きてきた自信に満ちていました。

活動の詳細は Twitter

関西大学「あかとんぼ」

学生団体 KUMC

ボランティアファンド HPでも紹介！



設立：2013年
部員：224人
主な活動内容：
防災啓発、地域活性化

関西大学ボランティアセンターからのメッセージ

児童文化研究サークル「あかとんぼ」や学生団体「KUMC」をはじめ、多数のボランティア



団体が、地域に飛び出して活動を展開しています。ボランティア活動を支援するなかで我々が感じることは、ボランティア団体も地域の皆様から「あたたかい心」で支えられているということです。ボランティア活動に参加しないと見えない景色へ関大生をエスコートすべく、当センターは、これからもボランティアの魅力を発信していきます！



ふくしおおさか

～ 出かける つなぐ 創る～

12²⁰¹⁸月号

©TOSHINOBU TAMBUCHI 2018. 11月8日、8時30分～9時15分まで、D.P.ビル1階にある福祉会館にて行われます。



3面に関連記事

焦点

今年は異常気象や自然災害が頻発した年。災害はじきこでも起こりえる。世界的には地球温暖化による異常気象前年から一層上昇した場合には洪水は脅威になると予測されている。このままでは社会・経済に大きな打撃を及ぼすことは明らか。自治体のごみだけでなく全体の利益・奉仕を考えた新しい考え方が必要。未来予測でどう日本を人口減少も気にならずに未来を描いた書籍が売れている。

また、2025年以降がいわれるが、団塊ジュニアが高齢者になり数億の1億人を迎える2040年の方がより深刻な事態になるようだ。特にバブル崩壊後の高齢者層の層であることがその深刻さが懸念されている。

人口減少の未来社会は高い大変なインテリジェンスが必要。これを促進し、利さ、快楽を求め続けたい。明るい未来のためには、少し我慢することもある必要ではないか、と思う。この頃である。(16)

市民が市民をささえるチカラ
～市民後見人活動をご存じですか？～

日時 12月21日(金)
午後1時30分～4時30分(午後1時開場)

会場 大阪府社会福祉会館 5階 501会議室
(大阪市中央区谷町7丁目4番15号)

内容 第1部 講演
[成年後見制度の概要と市民後見人の役割]
第2部 パネルディスカッション
[大阪府域における市民後見人活動について]

定員 200人(申込先着順)

申込・問合せ 大阪府社会福祉協議会 大阪後見文
庫センター ☎06-6764-7760
*詳細は、大阪府社会福祉協議会「トピックス」をご覧ください。

府社協

大学案内2019（2018年6月発行）

一人じゃなく、「みんな」の力で実現できた被災地支援。

ボランティア



ボランティアを通して多様な社会問題や地域の現状も肌で感じることができます。

関西大学
ボランティアセンター
学生スタッフ

社会学部 社会学科 社会学専攻 3年次生
綿谷 亮太
福岡/福岡大学附属大濠高校出身

出身地九州で熊本地震が起きた際、現地にいなくてもできることはあると考え、学内で義援金募集活動を実施しました。被災地に向けて「気持ち」も伝えるべく、学生や教職員から応援メッセージを募り、SNSを通じて発信。たくさんの方に協力いただき胸が熱くなりました。こうした経験で感じたのは、一人の力は小さくても人が集まれば大きな力が生まれ、ボランティアを通して社会問題を改善に導ける

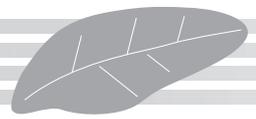
可能性があるということ。これからもボランティアの魅力と必要性を幅広く伝えたいと思います。

私の1日 *One Day Report*



オススメの理由

経験豊富な学生スタッフが学生目線で相談に乗ってくれる「ボランティアセンター」。たくさんのボランティア情報を入手できるので、一度足を運んでみてください。



関西大学ホームページ トピックス記事（2018年4月16日掲載）

ボランティアフェスティバル2018を開催しました。

千里山キャンパスで9日と10日の2日間、「ボランティアフェスティバル2018～助け愛の花、咲き誇る～」を開催しました。

本イベントは、ボランティアセンターが2008年より、一人でも多くの学生に学生ボランティア団体の活動を知ってもらうことを目的に毎年実施しているもの。今年はボランティアセンターが支援している8つの学生ボランティア団体が、それぞれの活動内容を学生らに伝えるための専用ブースを設置し、『ボランティア団体紹介冊子』などを用いながら説明しました。

参加団体の一つ「チャレンジャー」に所属する学生は「主な活動は、特別支援学校や障がい者施設のみなさんとの触れ合いです。特にクリスマス会はとても人気で、みなさんに喜んでもらっています。ボランティアフェスティバルを通して、たくさんの学生に入ってほしい」と意欲的に話しました。

また10日に行われた手話サークル「あっぷる」による「手話コーラス」では、サークルメンバーが楽曲に合わせて生き生きと手話を披露。サークルに所属する岡崎沙さん（法学部3年次生）は「手話を見たことがない学生も多いので、実際に見ることで、身近に感じてもらえるきっかけになればうれしい」と語りました。



関西大学ホームページ トピックス記事 (2018年4月25日掲載)

ボランティア体験ツアー「関大クリーン大作戦in高槻」を実施しました。

ボランティアセンターが18日、ボランティア体験ツアー「関大クリーン大作戦in高槻」を実施しました。本体験ツアーは、主に高槻キャンパスおよび高槻ミューズキャンパスの学生に、ボランティアの魅力をはじめ、活動を通して体験できる楽しさや達成感を知ってもらうことを目的としています。

参加者は22人。当日の夕方から約1時間にわたって、学生同士交流しながら、通学路である阪急高槻市駅からJR高槻駅周辺の道路や駐車場を心を込めて清掃しました。

参加したボランティアセンターの学生スタッフ赤松俊輝さん（文学部3年次生）は「清掃した場所が綺麗になり、参加してくれたボランティアが喜んでくれたことが嬉しかった」と今回の活動を振り返りました。





関西大学ホームページ トピックス記事 (2018年5月6日掲載)

「1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY 茶屋町スロウデイ2018」に本学学生が参加しました。

1日、梅田・茶屋町で、一年に一度キャンドルの灯がやさしく茶屋町エリアを包むイベント「1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY 茶屋町スロウデイ2018」が開催され、本学学生も光の演出の一端を担いました。

本イベントは、梅田・茶屋町エリアの企業、地域団体、学校および行政が集い、街の連携と賑わい創出を図ることで“歩いて楽しいまちづくり”を推進し、茶屋町エリアの新たな魅力を発信することをめざしています。2016年に梅田キャンパスを開設した本学は、今年で2度目の参加となりました。

ボランティアセンターを中心とした学生有志20人は、自ら考えてデザインしたキャンドルに命を吹き込み、夜の街に光の彩りを添えました。また、環境都市工学部建築学科都市設計研究室の学生たちは、茶屋町エリアでの滞在促進施策として、休息できるスポットを創出。「街行く人々にゆったりくつろいでもらいたい」という思いから、紙管とキャンドルを使用したインスタレーションで、茶屋町の街角に映画のワンシーンを切り取ったかのような空間を演出しました。



関西大学ホームページ トピックス記事 (2018年7月9日掲載)

ボランティアセンター主催「レクリエーション講座」を開催しました。

千里山キャンパスで4日、ボランティアセンターが「レクリエーション講座」を開催しました。

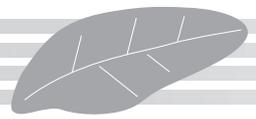
本講座の目的は、ボランティア参加へのきっかけおよび、個々のスキルアップの機会を学生に提供することです。遊んだりゲームをすることで、大勢の人を一緒に楽しませたり、初対面の人同士の緊張をほぐすことができるレクリエーションは、児童に関わるボランティアを行う上ではもちろん、高齢者施設や障がい者施設での活動にも大いに役立ちます。

当日は、人間健康学部の涌井忠昭教授を講師に、11種類のレクリエーションを実施。受講者は手を動かしてリズムを楽しむ“ゲー・バー”や、体を近づけると親近感を覚えるという人間の特性を生かした“共通点探し”、円になって飛び跳ねたりじゃんけんをする“こっち向いてホイ”、学習にも役立つ“協力漢字づくり”など実践的な学びを体験しました。

涌井教授は、実際にレクリエーションを行う中での参加者に合わせた配慮について説明。時には参加者に対処法を考えてもらうなど、随所で参加者全員が楽しめるような工夫が大切であることを伝えました。

最初は緊張した様子だった参加者からも、次第に笑いが起こり、終了する頃には会場が和やかな雰囲気になりました。参加者は「都道府県をあげていくゲーム」県名を懸命に探して賢明に”は、汎用性が高く活用しやすいと思った。子どもに関わる活動をしているので使ってみたい」などと感想を述べました。





関西大学ホームページ トピックス記事 (2018年9月26日掲載)

「飛鳥光の回廊2018」に本学学生がボランティアとして参加しました。

22日と23日の2日間、奈良県明日香村で開催された「飛鳥光の回廊2018」に、本学学生がボランティアとして参加しました。

本ボランティア活動は、明日香村との地域連携協定（2006年締結）に基づく事業の一環として2011年から開始し、今年で8年目を迎えました。「飛鳥光の回廊」は、石舞台古墳をはじめ、飛鳥寺などの明日香村内の代表的な史跡、寺社、施設をライトアップし、さらには20,000本を超えるろうそくの灯りで光の地上絵を表現するなど、村を光で包む幻想的な催しです。「彼岸花まつり2018」も同時開催し、真っ赤な彼岸花とろうそくの光で明日香村を見事に彩りました。

参加学生は、石舞台古墳周辺および鳥庄大字の通路を飾る灯るうのデザイン、製作、配置、ろうそくの点火などを担当。今年の光の地上絵は、全体テーマ「こころに咲く花、灯る華」に基づいて「明日香村の秋」をイメージし、彼岸花、イチヨウ、稲、トンボの4つを組み合わせたデザインを作成、明日香村の秋の夜に華を添えました。

また地域住民や観光客を対象に、古代衣装の試着体験も実施。学生が衣装の着付けを行い、衣装を着た人は30分間自由に石舞台周辺を散策できるというもので、たくさん子どもや大人が参加、その中で多くの交流が生まれました。鮮やかな衣装が明日香村の景色に映え、イベント全体の雰囲気作りにも貢献しました。

参加した学生は、「地域の人と協力しながらイベントを盛り上げることができました。キャンドルを並べるのはとても大変でしたが、夜に灯ったキャンドルはとても綺麗で大きな達成感がありました」と感想を述べました。

ボランティアセンターでは、学生のボランティア参加のきっかけとなるようなプログラムをさまざまな形で実施しています。詳しくは、ボランティアセンターのウェブサイトをご覧ください。

▶ ボランティアセンターウェブサイト



関西大学ホームページ トピックス記事 (2018年11月1日掲載)

第8回大阪マラソンには、給水ボランティアとして学生・生徒約400人が参加します。

第1回大会から本学がオフィシャルスポンサーとして参画している大阪マラソン。今年も各種ボランティアや沿道応援パフォーマンスなど、さまざまな形で大会運営をサポートします。

10月28日には、千里山キャンパスで約400人の学生（併設校生徒含む）が参加する給水ボランティアの説明会を開催しました。コース5km地点にある最初の給水所は、関大生のみで給水活動を行います。円滑に任務を遂行するうえで必要となるのがチームワーク。説明会では全20チームが顔合わせを行い、各リーダーの指揮のもと、当日の業務を確認しました。

説明会終了後には配付したウェアを早速着用し、気合十分の表情で記念のワンショットを撮影。普段の学生生活を離れた新たな出会いやつながりを築くことができるのも、この活動の醍醐味のひとつです。またとない貴重な機会を楽しみつつ、大会を支えるメンバーの一員として、関大生の代表として、それぞれ業務に臨んでください。ともに大阪マラソンを盛り上げましょう！

▶ [大阪マラソン2018応援サイト](#)





関西大学ホームページ トピックス記事 (2018年11月1日掲載)

第8回大阪マラソンでは、株式会社ダスキンとともに清掃ボランティア活動を行います。

第1回大会からオフィシャルスポンサーとして参加している大阪マラソン。今年も各種ボランティアや沿道応援パフォーマンスなど、さまざまな形で大会運営をサポートします。

12日には、株式会社ダスキンと共同で行う清掃ボランティアの説明会を堺キャンパスで開催。この活動に参加するのは、昨年に引き続き、ボランティア団体「WEVO（ウィーボ）」を中心とする学生たちです。マラソン当日は、清掃のプロ・株式会社ダスキンとのタイアップで、スタート地点および6ヶ所の給水・給食ポイントにおいてゴミの分別・回収作業を行い、まちの美化に努めます。

裏方として大会を支える学生たちの活躍にも、ぜひご注目ください。

■ [大阪マラソン2018応援サイト](#)



関西大学ホームページ トピックス記事 (2018年12月6日掲載)

ボランティア体験ツアー「関大クリーン大作戦in梅田」を実施しました。

ボランティアセンターが2日、ボランティア体験ツアー「関大クリーン大作戦in梅田」を実施しました。

ボランティア体験ツアーは、ボランティアセンター学生スタッフが一般の関大生に、ボランティアの魅力や活動を通して体験できる楽しさや達成感を知ってもらうことを目的として企画・運営しています。

当日は関大生27人が参加。学生同士交流しながら、普段何気なく歩いている梅田の街を約1時間かけてきれいにしました。

今回初めてボランティア活動に参加した濱崎稜太さん（法学部2年次生）は、「思っていた以上にゴミがあちこちに落ちていて、時間が足りないくらいでした」と今回の活動を振り返りました。ボランティア体験ツアーへの参加が2回目の小山あゆみさん（文学部1年次生）は、「学生同士で交流しながら同じ活動をするのが楽しかったです。タバコの吸殻が目立ち、本来は落ちてないことが望ましいと思いました」と活動を通して清掃活動の大切さを再認識する機会となりました。





関西大学ホームページ トピックス記事 (2019年2月20日掲載)

ボランティアセンターが「第2回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」を実施しました。

ボランティアセンターが17日、「第2回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」を実施しました。

本活動は、学生スタッフらが中心となり、学生にボランティアの楽しさを感じてもらうことを目的としています。本学では2007年度から淀川の清掃活動を通じて環境の改善に取り組んでおり、2011年度からはその規模を拡大させ、ミズノ株式会社との共同事業として大清掃活動を行ってきました。結果、淀川のごみの減量を成功させたこの活動は、2017年度からは他の河川の美化にも取り組みたいという思いから、本学の堺キャンパス近くを流れる大和川に場所を移して実施しています。

当日は寒さ厳しい冬空の下、本学学生・生徒およびミズノ株式会社社員ら総勢約500人が参加し、協力し合って回収したごみ袋は162袋にのぼりました。参加した八上緋夏さん（政策創造学部1年次生）は、「昨年より多くのごみを集めることができ、500人の力の大きさを感じた。このような活動を続けることは、自然保護や環境問題への関心を高める良いきっかけになると思う」と本活動を振り返りました。



編集後記

昨今、ほとんどの人がテレビやインターネットを通じて「ボランティア」という言葉を聞いたことがあることかと思えます。この「ボランティア」という5文字はカタカナ語のように言葉を聞くだけで様々なイメージが連想されると思えます。

しかし、実際にボランティア活動に参加したことがあるという方は、まだまだ少ないのではないのでしょうか。

私はボランティアセンターに配属となるまで、「ボランティア」という言葉を聞いて、抽象的なイメージしか湧きませんでした。それはあながち間違っておらず、実際に活動は環境保全活動・地域活性化・イベントのサポート活動など多岐にわたります。しかし、ボランティア活動に共通する“想い”については、似通っているように思います。それは、「放っておけない!」という想いです。

自分にとって大切な人が困りごとを抱えているとき、みなさんはどう思いますか?自分のことのように捉え、「なにか協力できないかな」と考える人が多いと思えます。実はボランティア活動も似ているところがあります。

ボランティア活動が求められる背景には、社会の歪み(ひずみ)が隠れていることがあります。そして、その歪みの向こう側には困っている人たちがいます。その困りごとに対し、「このまま放っておけない。自分にできることあるかな?」という気持ちが浮かんできたなら、それはボランティアの第一歩だと思います。

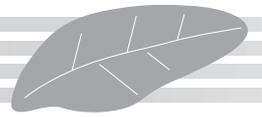
私はボランティアセンターで5年間を過ごし、多種多様なボランティアを通じ、たくさんの人と関わらせていただきました。たくさん“困った”と、“ありがとう”を聞いてきました。ボランティア現場での様々な人との出会いは、自分にとって家族が増えているような気持ちすら抱かせます。

当センターは、ボランティア活動と関大生の架け橋をかけるため、多彩なプログラムの提供及びボランティア情報の収集・紹介等を行っています。みなさんの「何かできることあるかな」の先を一緒に探します。少しでもボランティアに興味を持たれた皆さん、ぜひボランティアセンターにお越しください。

皆さんとお会いできる日を当センター一同、心よりお待ちしております。

ボランティア活動支援グループ

村上翔也



2018年度活動報告（第13号）編集委員

ボランティア活動支援グループ	グループ長 宇田川 真 治
	村 上 翔 也
	三 浦 茜
	橋 野 真 歩
ボランティアセンター学生スタッフ	2018年度代表 安 本 悠 人

2018年度 活動報告書(第13号)

発 行 日 2019年9月30日

発 行 所 関西大学ボランティアセンター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35
TEL 06-6368-1121 FAX 06-6368-0703
<http://www.kansai-u.sc.jp/volunteer>

印 刷 所 株式会社 ディーワーク
〒532-0026 大阪市淀川区塚本3-14-6



関西大学ボランティアセンター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

TEL.06-6368-1121

FAX.06-6330-3703

<http://www.kansai-u.ac.jp/volunteer>